

幼児教育と小学校教育をつなぐ 育ちと学びのかけはしブック



2020(令和2)年4月
和歌山県教育委員会

第1章 事例集作成にあたって 1

- 1 事例集作成にあたって 2

第2章 幼児期の遊びの中の学び 3

- 1 実践を通してみられる子供の姿 4
- ◆ダンゴムシを見つけたよ
 - ◆新幹線でおすしを運びたい!
 - ◆水を流してつなげたい
 - ◆パトロールに行こう
 - ◆喜んでくれるかな

第3章 育ちと学びをつなぐ 15

- 1 「遊びを通した学び」から教科等の学習へ 16
- 2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教育につなぐ
～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して～ . . . 17
- 3 「育てたい具体的な子供の姿」について 21
- 4 「育てたい具体的な子供の姿」につながる幼児教育での事例 . . . 22
- 事例 1 思考力の芽生え
 - 事例 2 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 - 事例 3 豊かな感性と表現
 - 事例 4 言葉による伝え合い
 - 事例 5 道徳性・規範意識の芽生え
 - 事例 6 協同性
 - 事例 7 自然との関わり・生命尊重
 - 事例 8 言葉による伝え合い
 - 事例 9 社会生活との関わり
 - 事例 10 健康な心と体
 - 事例 11 自立心 健康な心と体
 - 事例 12 健康な心と体
- } の観点から

- 【園・所での事例】 34

- ◆サクラレストラン
- ◆影であそぼう

- ◆クイズを考えよう
- ◆積み木でチャレンジ
- 5 幼児期の遊びを通した学びを小学校教育に生かす 42
 - (1) 幼児教育と小学校教育のつながりイメージ
 - 生活科
 - 図画工作科
 - 算数科
 - 音楽科
 - (2) 合科的な指導の実践事例 50
 - 国語科と生活科
 - 国語科と音楽科

第4章 幼児教育と小学校教育がつながる 55

- 1 子供同士の交流 56
 - (1) 笹飾りをつくろう
 - (2) あきランドであそぼう
 - (3) 小学校体験入学
 - (4) 入学前に通学路を歩いたよ
 - (5) 幼小での交流計画
- 2 職員同士の交流 66
 - (1) 幼小での話し合い ～カリキュラム編成にあたって～
 - (2) 現職教育への参加
 - (3) 保育・授業の相互参観及び情報交換会
 - (4) 保育体験・小学校体験
 - (5) お互いの教育から見えてきたこと

第5章 保護者に伝える 79

- 1 保護者に伝える幼児期の遊びの中の学び 80
 - (1) 園便りで園の1日の生活を発信
 - (2) ドキュメンテーションを活用して子供の育ちや幼児教育の理念を発信
- 2 安心して小学校入学を迎えるために 84
 - (1) 保護者に伝えるスタートカリキュラム
 - (2) 先輩保護者から学ぼう

第 1 章

事例集作成にあたって

1 事例集作成にあたって

平成29年3月に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時に改訂（改定）告示され、平成30年度から全面実施となりました。今回の改訂では、めざす資質・能力について、幼児期から高等学校まで見通しをもって育むことが示され、幼児教育では、その基礎を育みます。このようなことから、各幼児教育施設において、遊びを通した学びを充実させ、質の高い教育・保育を提供することが求められています。また、幼児教育と小学校教育で、発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育を展開することも重要になります。

しかしながら、幼児教育の「遊びの中の学び」を理解することは難しく、幼児期本来の遊びを通した総合的な指導が十分実践されていないことや、幼児教育で育まれた「環境に主体的に関わる子供の姿」が小学校教育で生かされていない等の課題があります。

和歌山県教育委員会においても、平成31年4月に「和歌山県幼児教育推進計画」を策定し、次の方針に基づき、幼児教育の質の向上に向けた取組を行っているところです。

めざす幼児教育の方針

幼児期の発達の特性に応じ、子供が夢中になり主体的に遊ぶ体験を大切にする

めざす子供像

遊びを見つけ、遊びこむ中で、好奇心や探究心をもって、
人やものとかかわろうとする子供

幼児教育施設では、友達や様々なものと関わりながら、夢中になって遊ぶ中でたくさんのお話を学ぶ幼児教育の特性を踏まえ、主体的な活動を促す環境を構成し、一人一人のよさや可能性を見出す幼児教育が展開されることを願います。

また、小学校では、スタートカリキュラムを充実させ、子供たちが小学校生活にスムーズに適応できるようにするとともに、学習に興味をもてるよう、分かりやすく学びやすい環境をつくる等、授業展開が工夫されることを期待します。

本冊子は、本県がめざす幼児教育の考えに基づいた教育・保育が展開されるよう、また、幼児教育と小学校教育の連携・円滑な接続が図られるよう、その参考となる事例を掲載しました。各幼稚園・保育所・認定こども園及び小学校で有効に活用されることを願います。

第 2 章

幼児期の遊びの中の学び

本冊子は、幼児教育と小学校教育の育ちと学びをつなぐ観点から、主に5歳児の事例を掲載していますが、5歳児だけではなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねてください。

*本冊子に記載の「幼小」の「幼」とは幼児教育、「小」とは小学校教育をあらわしています。

1 実践を通してみられる子供の姿 遊びを通した『学び』を見てみよう!

5歳児
5月

ダンゴムシを見つけたよ



子供たちはそれぞれの興味・関心に応じて、遊びを展開しています。ここに掲載の事例は、そのような遊びの一場面を紹介しています。

活動のきっかけ

子供たちはダンゴムシを飼うことよりも、探して捕まえることに夢中で、家に持って帰ったり、小さなケースに入れて、大きなケースを準備し、環境を変えてみたところ、子供たちがそこにダンゴムシをたくさん入れて育てるようになった。

子供の興味が停滞しているときは実態把握をしながら、環境に少し目新しさを加えることで、遊びや活動の広がりが見られることがたくさんあるよ。

ケースの色や形、大きさも熟考して準備している。その結果、新しいアクシヨンが生まれるね!

子供が迷う、困る。「どうしよう」「いい方法はないかな?」の瞬間への働きかけや環境構成が大切!

いっぱい捕まえたら、戻ってくるの大変や

先生、ダンゴムシいっぱいいてるところ見つけたで

自然との関わり・生命尊重



石の下にいっぱいかくれてたで



協同性

ケースがちやうど子供でも持つような大きさだったので、捕ってすぐに入れられるようにと考え、飼育ケースを手押し車に乗せて、移動式のダンゴムシの家にするようになった。

じゃあ、ダンゴムシの家も持って行こうか

そしたらいっぱい入れられるな



自然との関わりの中では、様々な気付きや発見がある。実際に虫探しをしながら、たくさんの方の事を学んでいるんだね。

言葉による 伝え合い

はてなや不思議に出会ったときは、今までの経験を生かして考える子供たち。答えをすぐに示してしまわずに見守ることも必要だね。

興味や関心がわいたときに、知りたいことについて子供がすぐに調べたり、探せたりする環境を整えることが大切！

社会生活 との 関わり

あの虫、何やるなあここに載ってるかな？

道具にもいろいろな選択肢がある環境！こうして用途や適性を知らんだね。



ダンゴムシ何、食べるかな？

生き物との関わりでは、世話を通して生命を大切にすることが育っていきよね。

大きなシャベルを持ってきて広い場所を掘ったり、場所によっては手で探したりしながら、毎日何かを見つけて楽しんでいました。

すぐに禁止や制止をするのではなく、一緒に方法を考えることが大切！

ダンゴムシを見つげるために、友達のプラントーの下を見たり、花壇の中に入って花や球根を抜いたりしていたので、入ってよい場所や探し方を子供たちと一緒に決めました。



あつ、ミミズ発見！ちよつと待って！これ何か埋まってるサツマイモ違う？

ただの木やで

違うでサツマイモやで

うわあ！何か見たことない虫出てきたで



ほんまや！かまれたら痛そう！きば生えてるで！

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、いくつもあります。ここでは主なものや特徴的なものを取り上げています。

⇒ P16~20「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」参照



ひっぱっても、
いい〜？

お寿司
乗せるから、
待って！

なかなか新幹線で寿司を運ぶことができませんでした。しかし、どうしても実現したかった子供たちは、試行錯誤し考えた結果、寿司を乗せたトレイをひもでつなげ、それを引っ張ることにした。この新幹線を使って、寿司を運ぶのに最適な場所が遊戯室であると気づき、新たに寿司屋は始まった。

したいことを最後まで粘り強くやり遂げようとする力は、子供たちの中に潜んでいる。保育者は、じっくりと関わりたり見守ったりしながら、その力を引き出すことが大事だね！

思考力の芽生え

よし！ここやったら、
また、寿司屋できるやん！



自立心

大好きな回転寿司屋での経験から「お寿司を新幹線に乗せて運びたい」と思ったある子供が、家で新幹線を作ってきた。そして、友達や担任と一緒に色々な材料を準備したり、話し合ったりしたが、なかなかうまく寿司を乗せて運ぶことができなかった。

言葉による伝え合い

失敗から工夫することを学んでいく。子供自身の学びを大切にすると同時に、保育者の出番を考えよう！

新幹線、
つくって
きたで！

ここへお寿司
乗せてみたら
どう？

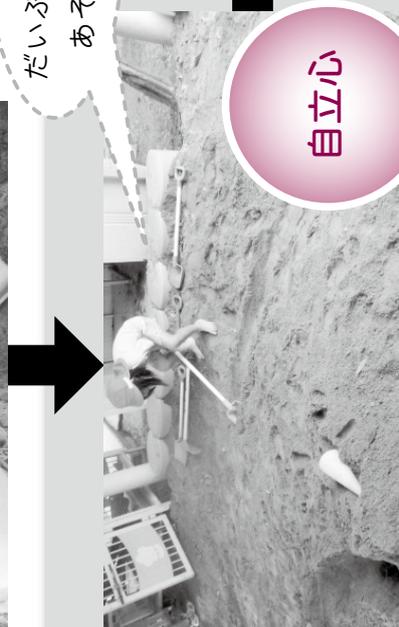


どうしたら
お寿司運べるん
やろう？

う〜ん…

新幹線のイメージが一人一人違うことを認め、考えを出し合ったり、友達と一緒に試したりする時間を確保することは大切！

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、いくつもありません。ここでは主なものや特徴的なものを取り上げています。



遊びを進める中で共通の目的は“水を流す”ということになった。途中で意見が分かれたり、ぶつかったりしても、同じ目的に向かって、個々に折り合いをつけて納得しながら、遊びが続いた。

保育者は、子供たちの友達関係や遊び等をよく見て、個々の気付きをつなぐことが時には必要。でも、子供たち自身で解決していく姿を見守ることは、もっと大切だね。

遊びの中から、様々な道具を使ったり選んだりしながら「何に使える?」「代わりのものがない?」など、工夫することのできる環境が大切だね。

協同性

思考力の芽生え

自立心

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、いくつもあります。ここでは主なものや特徴的なものを取り上げています。

1 実践を通してみられる子供の姿 遊びを通した『学び』を見てみよう!

5 歳児
10月~11月



パトロールに行こう

活動のきっかけ

「けいどろ」で友達を捕まえたり、捕まったりを繰り返して楽しんでいた子供たち。そこから「警察ごっこをしよう!」と一人の子供が提案し、遊びが発展して広がった。

遊びの中で、文字や看板が人に知らせる役割をもつことに気付いたり、これらを活用したりしながら、自然と文字に親しんでいくんだね。

「けいさつしよ」もつくろう

どんなものがあるといいかな...

警察手帳をつくらうよ!



それぞれが体験したことや知っていることを伝え合ったり、写真や本などを見て自分たちで作りたいものを決めたり、より本物らしく工夫していく中で、自分だけでは気付かなかったことを知り、遊びがもっと楽しくなることや、情報を伝え合うことのよさを実感していくんだね。保育者は子供と情報との出会いを工夫していくことも必要だね。

警察官 見たことあるで 制服も つくりたいな

テレビで 見たけど、帽子があつたらもっとかっこよくなるで!

社会生活との関わり



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

会話をしながら様々なアイデアが生まれた。そこから「捕まえた人はどうする?」「警察署もいるよ。」と遊びに対するイメージが広がり、どんどんアイデアが出てきた。



パトカーで
見回りに
出発〜!!

悩んだり、考えたり、様々なことを共有しながら、相手の気持ちを考えながら行動・発言する姿が見られるようになっていくんだね。

協同性



見回りごころうさま
ぼくたちは警察署で
待ってるね

遊びに加わる友達や、その遊びに必要な道具も増え、11月の園開放まで「警察ごっこ」は続いた。



仲間に入れて

じゃあ、
パトカーをつくって
見回りに行く人
決める？

警察署の中は、もう、
いっぱいやけど…

**言葉に
よる
伝え合い**



一緒に
見回りに
出発〜!!

いって
らっしゃい



パトカー
かっこ
いいね!

一緒にパトカーで
パトロールする？

話し合いから見回り隊ができた。園開放当日には、保護者や他園の子供たちの参加があったので、一緒にパトカーに乗って、園内パトロールをする遊びが大盛況となった。そのうちに、子供たちのパトロールは、地域の方々を乗せて園内を案内する「乗り物ごっこ」に発展していった。

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、いくつもあります。ここでは主なものや特徴的なものを取り上げています。

1 実践を通してみられる子供の姿 遊びを通して『学び』を見てみよう!

5歳児
12月

喜んでくれるかな



サンタさんの服、
モコモコつけたら
おしゃでしょ



子供の興味や関心を見取り、環境を構成!

活動のきっかけ

クリスマスシーズンになり、イルミネーションや音楽などで、クリスマスを楽しむに
する子が増え、園でもクリスマスの飾りやサンタの服作りが始まった。

クリスマスの飾り作り!
収穫したさつま芋のツル、劇遊びやごっこ遊びで使った物が今回の遊びにつながるきっかけになった。

自然との
関わり・
生命尊重

さつま芋の
ツル長いね!



きれいな
葉っぱと
木の実
見つけたよ!

豊かな
感性と
表現



これどう
折るの?

こう
するん
だよ～



芯、立てる時
下に切り込み入れた方が
頑丈な帽子になるわ



思考力
の
芽生え

サンタの帽子や服作り!
イメージしたものやアイデアを実現
できるよう、素材を準備したり、子供と一
緒に考えたりした。

考えたり試したりしながら、イメージを表現することが大
切! 答えをすぐ伝えるのではなく、試行錯誤する経験を大
事にしたいね。

ソリを作ろう!

クリスマスが近くなり、園にやって来るサンタさんに乗ってもらおうと、ソリ作りが始まった。

タイヤだとよく動くので！
合体させる？



どうしても底が抜けてしまおう～

思考力の芽生え

1人, 2人, 3人...
7人乗っても大丈夫!!



今までの経験を結び付けて考えている。色々試しながら特性を生かした方法が出るような環境づくりを心がけよう!

板, 付けてみよう!!



豊かな感性と表現

ヘリコプター!
〇〇組さん, 喜んでくれるかなあ...



子供の数だけ思いや発想, 遊びがある。興味・関心に応じて遊びが枝分かれして発展していったんだね。

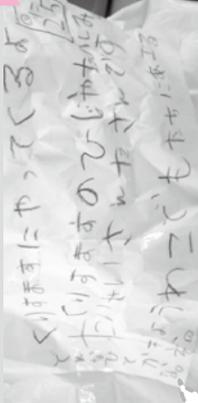
プレゼントを作ろう!

サンタやトナカイに変身し, なりきって遊ぶ中で, プレゼント作りが始まる。「赤ちゃんクラスのお友達にプレゼントを届けよう!」という思いも出てきた。

サンタさんへのお手紙はこのポストに入れてね!



「伝えたいことを文字で表したい!」楽しい経験からの文字との出会いは大切だね!



数量や図形, 標識や文字などへの関心・感覚

サンタさんからのメッセージ

ここ切ったらサンタさん乗れる?



うん!ここ持っとくわ!

ソリを作ろう!

友達のソリ作りを見て, ソリに乗って〇〇組さんに, プレゼントを届けに行くことが決定した。友達とアイデアを伝え合ったり協力したりし, 思いを共有する姿が増えてきた。

お互いのイメージが共有できず, 一方的な思いのまま活動が進んでいないかを読みとって, 援助する保育者の視点は大事だね。ただし, 思いがぶつかり合う経験も必要で, 相手の思いを知ったり, 折り合いのつけ方を学んだりしている子供たちの姿をしっかりと見極めよう!

テープはあかん!
タイヤがはずれる! ひもで巻く?



振り返り

下に堅い板とか敷いた方が頑丈やで〜!!



遊びを振り返ることは遊びが深まるチャンス!友達と
思いを共有したり,新しいことに気付いたり…。その後の
遊びがより充実するね。
保育者は,遊びと遊びが繋がったり広がったりしてい
くような,環境づくりや働きかけが大切だね!



クリスマス当日

サンタさんが登場!
完成したソリに乗ってもらった。

クリスマスプレゼントを届けよう!
乳児クラスの担任にお昼寝の時間を聞きに行き,お
昼寝の間にプレゼントを置きに行く作戦を計画した。

自分達で役割も決めて出発。
思いがこもった遊びは,意
欲や自信につながるよ。



みんなで力を
合わせて出発!!

サンタさん,
乗り心地いい?



赤ちゃん
寝たよ!
出発!!

言葉に
よる
伝え合い

協同性 自立心



起きたら
喜ぶかな?

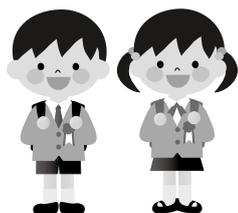
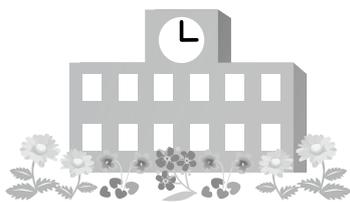
一緒に
引っ張ろう!

乳児クラスの子が起きる頃,子供たちはサンタの服を
脱ぎ,再びクラスに行き,乳児が喜ぶ姿を見た。そして,一
緒にプレゼントで遊んで楽しんだ。

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は,いくつもあります。ここでは主なものや特徴的なものを取り上げています。

第 3 章

育ちと学びをつなぐ

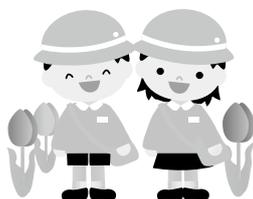


小学校教育

遊びを通して育まれた様々な力が、小学校の教科等の学習につながるよう、授業の工夫をしています

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 1 健康な心と体
- 2 自立心
- 3 協同性
- 4 道徳性・規範意識の芽生え
- 5 社会生活との関わり
- 6 思考力の芽生え
- 7 自然との関わり・生命尊重
- 8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 9 言葉による伝え合い
- 10 豊かな感性と表現



幼児教育と小学校教育で共有



子供の興味・関心に基づき「知りたい」「してみたい」という思いを大切にされた保育を展開しています

幼児教育

幼稚園・保育所・認定こども園等



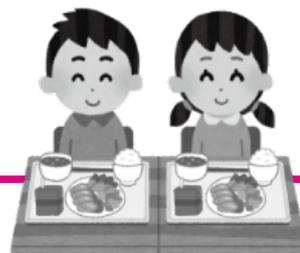
2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教育につなぐ

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して～

こんな姿につながるよ！！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、小学校学習指導要領にも示されています。これは、5歳児後半の評価の手立てにもなります。また、これを幼児教育施設の保育者と小学校の教員が共有することにより、幼児教育と小学校教育が一層円滑に接続することが期待できます。

ここでは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校の学習や生活にどのようにつながっていくのかを具体的に示しています。



① 健康な心と体 → 小学校では…

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

- 早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣を身に付ける
- 健康で安全な生活について考え、よりよい生活習慣に向けて行動する
- 食事のマナーを守り、好き嫌いなく友達と楽しく食べる
- ルールを守り、友達と競い合ったり力を合わせたりして運動する
- 休み時間など、友達や先生と体を動かして楽しく遊ぶ
- 交通ルールやマナーを守って、安全に気を付けて登下校する
- 危険な場所や行動について、自分で判断し安全に気を付けて自分の身を守ろうとする



小学校での
子供の姿
(例)

- 自分の身は、自分で守れるように、落ち着いて避難訓練に取り組む
- 病気になるないように、うがいや手洗いをする

② 自立心 → 小学校では…

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

- チャイムや時計を意識し、時間割にあわせて見通しをもって行動する
- 持ち物の整理や着替えなど、自分のことは自分でする
- 係や当番活動など、自分のすべきことを自信をもって行う
- 分からないことや難しいことにも、粘り強く最後までやり遂げようとする
- 様々な動きを経験するとともに、目標達成に向けて挑戦しようとする
- 学習中、進んで挙手し自分の意見を言う



小学校での
子供の姿
(例)

- 時間割を見て、次の授業の準備をする
- 次の授業に間に合うように、休憩時間内に着替える
- 自分の目標に向かって諦めずに挑戦する



3 協同性

小学校では…

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

- 友達と助け合って楽しく学校生活を送る
- 新しい友達と自分から関わり、クラスの一員としての意識をもつ
- 互いに考えを聞き合い、学習活動に取り組むことで、学び合う楽しさを味わう
- 友達と思いや考えを伝え合い、受け止めたり認め合ったりしながら共に活動する
- 給食の身支度を整え、友達と協力して配膳や片付けをする

小学校での
子供の姿
(例)

- みんなが楽しめるお楽しみ会にするには、どうすればよいのかと、友達とアイデアを出し合い、協力してやり遂げる
- 算数科で、自分の考えを出し合い、よりよい考えや方法をみんなでつくり上げていくことを楽しむ

4 道徳性・規範意識の芽生え

小学校では…

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

- 順番など、集団活動でのきまりを守って生活する
- 自分の考えと異なるときにも、気持ちを調整し、前向きに物事を進める
- してよいことや悪いことが分かり、友達同士で声を掛け合い、考えて行動しようとする
- 学級をよりよくするためのきまりを考えたり、新たに作ったりする



小学校での
子供の姿
(例)

- 廊下を走らない、チャイムとともに行動する等のきまりを守って、みんなと学校生活を送る
- 遊具や清掃用具等、みんなで使うものを大切にする
- 休憩時間に、トラブルが起きたときには、自分たちで解決の方法を考えて楽しく遊ぶ

5 社会生活との関わり

小学校では…

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

- 自分の身近にいる学校内外の人々と、挨拶などを通して関わる
- 学校生活を支えている様々な人に関心をもち、感謝の気持ちをもって関わる
- 学校や地域探検等を通して、人・もの・こと・場所に愛着をもつとともに、学びの場を広げる



小学校での
子供の姿
(例)

- 学習したことを生かし、地域の公園を大切に利用する
- 生活科で、家族の一員として自分でできることを考える
- 登下校時に、自分たちの安全を守ってくれている地域の方々と挨拶や言葉を交わす



6 思考力の芽生え

→ 小学校では…

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

- 新しく学習する内容の課題解決に向けて、主体的に取り組む
- 不思議に思ったことや疑問に思ったことを尋ねたり、進んで調べたりする
- 見つける、比べる、試す、工夫するなど多様な学習活動に取り組む



小学校での
子供の姿
(例)

- 算数科「くり上がりのあるたし算」の学習で、それまで習ったことをもとに計算の仕方を考え、また、友達の考え方を聞いて理解を深める
- 学級目標について「どんなクラスにしたいのか」をみんなで話し合う

7 自然との関わり・生命尊重

→ 小学校では…

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもち、生命を大切にするようになる。

- 動植物や身近な自然に触れ、育つ場所、変化や成長の様子に興味をもち、気付いたことを表現しようとする
- 身近な動植物の世話をしたり、観察をしたりして、親しみをもち、生命を大切にする



小学校での
子供の姿
(例)

- 一年を通して1本の木を観察し、季節による木の変化から、自然の不思議さに気付く
- 学級で飼っている生き物の世を通して、生き物を大切に育てる気持ちをもつ
- アサガオの水やりを通して、その成長に関心をもち、愛着をもって育てる

8 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

→ 小学校では…

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

- ひらがなや数の読み書きに、興味・関心をもって取り組む
- 鉛筆の持ち方に気を付けて、自分の名前やひらがな(簡単な文)を書こうとする
- 読み聞かせや読書を楽しむ
- 具体的な操作を通して、数の合成・分解をする



小学校での
子供の姿
(例)

- 校内の表示や案内、掲示物(給食の献立・図書室の利用・児童会からのお知らせ等)に興味をもち、進んで知ろうとする
- 算数科の「ひろさ」の学習で、これまでの経験を生かして様々な比べ方を考える

9 言葉による伝え合い

小学校では…

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや、考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

- 自分の伝えたいことや相手の状況を考え、積極的に自分の考えを発表する
- 先生や友達の話を中心して最後まで聞き、話の要点を理解しようとする
- 決められた時間内は、椅子に座ってしっかり話を聞く
- 自分の思ったことや困ったことを、友達や先生に相談したり、話したりする



小学校での
子供の姿
(例)

- 読み聞かせや読書タイムで、本に親しみ、話の内容を想像する
- 自分の考えや思いを相手に伝えるように話す

10 豊かな感性と表現

小学校では…

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

- 絵や図、言葉や文で自分の思いや考えを表現する
- 見たり聞いたりして感動したことを、言葉や絵などで表現する
- 歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりして表現活動を楽しむ



小学校での
子供の姿
(例)

- 図画工作科で、絵を描くことや、ものづくりをすることなどを楽しみ、発想豊かに表現したり、鑑賞したりする
- 国語科で、登場人物が、どんなことを考えているのか想像をふくらませて読む
- 音楽科で、音楽を聴いて想像したことや感じとったことを、言葉や体を使ってのびのびと表現する
- 生活科で、身近な自然を活用して遊んだり、生活に役立つものなどを工夫してつくったりして季節を楽しむ

*「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目は、「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示文部科学省)による



幼児教育と小学校教育では、子供の生活や教育方法が異なるため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からイメージする子供の姿に違いがあります。

保育者と小学校教員が話し合い、**子供の姿を共有することで、それぞれの教育に対する理解が進みますね。**

3 「育てたい具体的な子供の姿」について

～小学校生活を支える基礎的な力～

幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続についての重要性が高まっています。しかしながら、遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と各教科等の学習内容を系統的に学ぶ児童期の教育課程は内容や進め方が大きく異なり、小学校教育への接続が容易ではありません。そのことが子供たちにとって、接続期の段差になっていると考えられます。子供たちがこの段差を乗り越える力を身に付けるとともに、段差を滑らかにし、小学校生活にスムーズに移行できるようにするための取組が必要となります。そこで、実態調査から浮かびあがった和歌山県の子供たちの課題をもとに、小学校生活を支える基礎的な力として、小学校入学後の姿をイメージして「育てたい具体的な子供の姿」（下記参照）を整理しました。

「育てたい具体的な子供の姿」

～小学校生活を支える基礎的な力～

- ① 不思議に思ったことや疑問に思ったことを尋ねたり、進んで調べたりする
- ② ひらがなや数の読み書きに、興味・関心をもって取り組む
- ③ 見たり聞いたりして感動したことを、言葉や絵などで表現する
- ④ 決められた時間内は、椅子に座ってしっかり話を聞く
- ⑤ 順番など、集団活動でのきまりを守る
- ⑥ 友達と助け合って、楽しく学校生活を送る
- ⑦ 身近な動植物の世話をしたり、観察をしたりして、親しみをもち、生命を大切にする
- ⑧ 自分の思ったことや困ったことを、友達や先生に相談したり、話したりする
- ⑨ 自分の身近にいる学校内外の人々と、あいさつなどを通して関わる
- ⑩ 持ち物の整理や着替えなど、自分のことは自分でする
- ⑪ チャイムや時計を意識し、時間割にあわせて見通しをもって行動する
- ⑫ 食事のマナーを守り、好き嫌いなく友達と楽しく食べる



「育てたい具体的な子供の姿」は、あくまでも小学校入学後の姿をイメージしたものです。次頁からは、このような子供の姿につながる保育者の視点を示しました。幼児期には、幼児期の子供たちの発達の段階に応じた内容や教育方法があります。また、各園・所には、それぞれの文化があり、地域や子供の実態に応じた保育を展開していくことが大切です。

ここで例に挙げた育ちつつある子供の姿は一例です。保育者が見通しをもち、子供の発達や学びの連続性を踏まえ、幼児期に培われた学びを小学校教育に生かし、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が図られることを期待します。

見のがさないで! ~育ちつつある子供の姿~



思考力の芽生えの観点から

保育者として大切にしたいポイント!

子供たちが身の回りのことに積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりする好奇心や探究心を大切にしよう!

- 身近な事象に興味をもつ子供の姿を大切にし、自分たちで試したり工夫したりする姿を見守る。
- 子供たちがのびのびと活動し、好奇心や探究心を膨らませることができるよう、環境づくりを工夫する。
(時間・場所・雰囲気など)
- 場に応じて、子供の発見や気づきをみんなで共有する機会を大切に

01

【「育てたい具体的な子供の姿」1につながる育ちや学び】

幼児期の思考力の芽生えは、小学校生活で出会う教科等の学習に、興味や関心をもって進んで調べる等の態度の育成につながります。また、自然の事物や現象に関心をもち、その理解を確かなものにする基礎となります。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

遊びや生活の中で必要感をもって、文字や数などを使って楽しみたいという気持ちを大切にしよう!

●子供たちがイメージをすぐに実現できるよう、場所や素材、用具等の環境を整えておく。

●正しい文字や数字になっていなくても、自分で書こうとする意欲を大切にする。



02

【育てたい具体的な子供の姿】2につながる育ちや学び

幼児期の数量や図形、文字などへの関心や豊かな感覚は、小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながります。また、学んだことを日常生活の中で活用する態度にもつながります。



豊かな感性と表現
の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

その子なりのアイデアや、表現したいという思いを大切にしよう!

- 感じたことや考えたことを、自由に表現できるように、用具や素材等を準備する。
- 友達とイメージを共有し、工夫しながら表現する姿を認め、充実感を味わえるようにする。

03

【「育てたい具体的な子供の姿」3につながる育ちや学び】

自分の感性を働かせ、のびのびと表現することを楽しむことは、様々な方法で新しいものをつくり出す力へとつながります。また、音楽や造形、身体等による表現の基礎となり、自分の思いや考えを表現する方法を選ぶ素地にもなります。

遊びの中



言葉による伝え合いの観点から

保育者として大切にしたいポイント!

様々な話に興味をもち、共感したり自分の体験を重ね合わせたりしながら聞く姿を大切にしよう!

クラスの集まり



避難訓練



●みんなで話を聞く中で、互いの発言に関心をもち、受け止め合える雰囲気をつくる。



●話し手の顔を見て、最後まで聞くなど、機会をとらえて話の聞き方を伝える。

お互いの信頼関係を大切にし、話を聞くことに関わる様々な体験を重ね、話し手が伝えようとしている内容に注意を向けられるよう、環境や指導の工夫をしましょう。

紙芝居読み聞かせ



●場に応じて円形や馬蹄形など、話が聞きやすいように、座り方や椅子の配置等を工夫する。

04 【育てたい具体的な子供の姿】4 につながる育ちや学び

5歳児後半には、自分の考えを相手に分かるように話すこと、相手の話をよく聞いて理解しようとする事への意欲が育ってきます。話し合いの約束を理解し、人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す経験が、小学校においても人の話を聞く態度につながります。



道徳性・規範意識の芽生えの観点から

保育者として大切にしたいポイント!

子供同士が自分の思いを伝え合いながら、遊びや生活をする中で、折り合いをつける体験をし、きまりの必要性に気付いていく姿を見守ろう!

●子供同士で思いや考えを出し合い、認め合える雰囲気をつくる。

●試行錯誤を認め、きまりやルールを守ることで、友達との遊びが楽しくなるという実感がもてるようにする。

05

【「育てたい具体的な子供の姿」5につながる育ちや学び】

楽しく集団生活をするには、きまりやルールが必要であることや、自分の気持ちを調整し折り合いをつける経験をすることが、小学校生活において、初めて出会う友達とも楽しくしていこうとする態度の育成につながります。

協同性
の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

遊びの中で会話をしながら、互いの思いを共有し、イメージを広げ、工夫したり協力したりする姿を大切にしよう!

●子供の様々な思いが実現できるような用具や素材、場所など自由に選べる環境を工夫する。

●友達と一緒に活動する楽しさを味わうことを通して、友達によさに気付けるようにする。



06 【育てたい具体的な子供の姿】6につながる育ちや学び

幼児期に育まれた協同性は、小学校における学級等での集団生活の中で、自分にはなかった気付きや発見を喜び、友達と協力して生活したり学び合ったりする姿につながります。

散歩に
出発～!



オタマジャクシが
いたらいいな
バケツを持って
いこう!



触りたい!
先生、
とって!

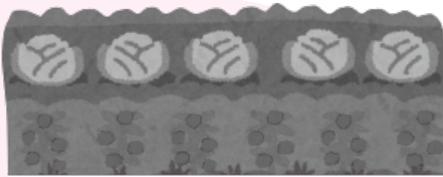
ゼリーみたいな
黒いのがある!
みんなで
飼おうよ!



キャベツに
小さな穴が
あいてる!

あれ?
葉っぱに
虫が付いてる

この虫、キャベツが
大好きなんだよ
きっと!



部屋で
飼って
みよう



エサは何かな?
飼い方を
調べよう

小さいから
ケースから
出てこないかな?



図鑑に
のってるかな!

形が
変わったぞ



ケースに
くっついて
動かなくな
ったぞ

あ、チョウに
なってる
ケースの中じゃ
飛べないね
逃がして
あげよう!



広いお空に
とばして
あげよう!

自然との関わり・ 生命尊重 の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

身近な自然に興味をもてるよ
うな機会を大切にし、子供たち
が好奇心や探究心をもって、生
き物を見たり触れたりする姿を
見守ろう!

●園内外の自然の状況を
把握し、積極的に動植物
に関われるような機
会を大切にする。

●動植物の成長の様子が
分かるよう、写真等で
記録を残し、掲示する。

●関連する図鑑や絵本を
コーナーに置く。

●飼育・栽培や、その観察
を通して、命あるものを
大切にしたり、いたわっ
たりする気持ちを育む。

07

【育てたい具体的な子供の姿】7につながる育ちや学び

自然の事物や現象に関心を持ち、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切に
し、生きることの素晴らしさについて考えを深めることにつながります。



言葉による伝え合いの観点から

保育者として大切にしたいポイント!

一人一人の話したい気持ちを大切にしよう!

●保育者や友達との温かな人間関係を基盤に、安心して話ができるように援助する。

●子供同士のやりとりを認め、自由に話せる雰囲気をつくる。




様々な活動の中で、伝え合う喜びを感じられるようにし、友達と互いのよさを認め合えるようにしましょう。

08

【育てたい具体的な子供の姿】8 につながる育ちや学び

友達同士で互いの思いや考えを伝え合うことは、相手を受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿につながります。特に戸惑いが多い入学当初に、自分の思いや考えを言葉に表せることは、新たな人間関係を築く上でも大きな助けとなります。



地域の
高齢者
との交流

社会生活との関わり
の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

- 様々な機会をとらえて、子供と地域のつながりが深まるような環境づくりを大切にしよう。




子供たちは園内外の様々な環境に(人・もの・こと)関わる中で、地域に親しみをもったり、遊びや生活に必要な情報を取り入れたりしながら、社会とのつながりを意識するようになります。



09

【育てたい具体的な子供の姿】9 につながる育ちや学び

地域の様々な人と関わることや、行事や文化に触れることは、地域への興味・関心が深まるとともに、地域の中で学びの場を広げることにもつながります。

健康な心と体の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

一人一人の頑張りや自分たちで生活をつくり出している様子を認め、自信をもって行動できるように関わりをしよう!

●毎日繰り返し行うことによって習慣化し、見通しをもって行動できるように工夫する。

●子供の動線に配慮し、収納用具等、生活の環境を整える。



身支度片付け



使いかけは、大きさ別に片付けよう!

健康



僕は家に帰ったらうがい、手洗いしてるよ

汗をかいたら、そのままにしておくと、風邪ひくよ



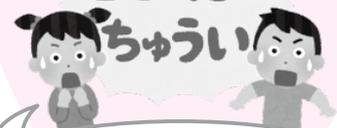
安全

廊下を走ったら危ない!



とびだしちゃう!

トイレから急に飛び出したら、こっつんこするよ



【家庭との連携】

家庭との連携を密にしながら指導することが大切です。

10

【育てたい具体的な子供の姿】10につながる育ちや学び

保育者や友達に認められながら、生活に必要な活動を習慣的に行えることは、自分から行動しようとする意欲や自信につながります。



21日は、芋ほりだよ楽しみだね

29日は、遠足の日だから、バスの絵をかいたよ

あ!もうすぐ〇〇ちゃんの誕生日だね

〇〇ちゃんにプレゼントつくろうよ

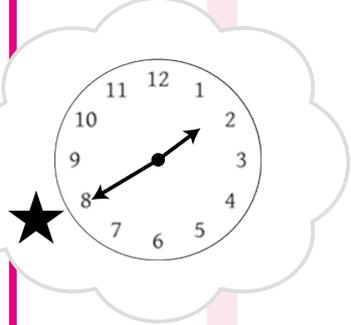
いいね!内緒でつくろう!

様々な活動の中で、お互いに声をかけ合い意欲的に活動する姿を見守りながら、充実感や自己肯定感がもてるようにしましょう。

★印になったから、もう、片付けだね

明日も続きをしたいから、このままにしておこうよ

じゃあ、触られないように、テープで囲っておこうか?



**自立心
健康な心と体の
観点から**

保育者として大切にしたいポイント!

目的に応じて時間をうまく使ったり、場所を選んだりして、自分たちで遊びや生活を進めていく姿を見守ろう!

●生活に見通しをもったり、活動の始めや終わりの時刻を意識したりできるように、カレンダーや予定表、時計など工夫する。

●見通しや期待をもち、自分たちで明日の活動が始められるような環境づくりをする。

11 【育てたい具体的な子供の姿】11 につながる育ちや学び

メリハリのある生活をするには、時間に対する概念や感覚が養われ、小学校の時間割に沿った生活や次の活動を考えた準備など、見通しをもち、考えて行動する姿につながります。

栽培・収穫



健康な心と体
の観点から

保育者として大切にしたいポイント!

- 子供と共に栽培, 観察, 収穫をし, 子供たちの気付きや感動に共感する。
- 食べ物の名前や味, 栄養等に, 興味・関心をもてるような環境づくりをする。

簡単な調理



空腹感を
感じて



- 十分に体を動かして遊び, 空腹感を感じて, 食べることの楽しさや満足感を味わえるようにする。
- 友達と一緒に食べる楽しさや, 喜びを感じられるような雰囲気をつくる。

12

【育てたい具体的な子供の姿】12 につながる育ちや学び

身近な食べ物の名前や味, 色, 形などに親しみ, 食べ物に興味や関心をもつようにすることは, 日常の食事を大切にする態度を育みます。また, 昼食の時間を楽しみにする気持ちを共有することは, 友達や先生と一緒に食べる喜びにつながります。

きれいな花びらやな
これで、ケーキ
つくろうかな



ごちそういっぱいできた！
でも、もう置けなくなったから、
おうちを大きくしたいな！



そりやな
テーブルもう1個、
持ってくるわ

葉っぱの
野菜も入れて
スープ
つくろう

葉っぱ
買って来たよ



テーブル
増やしたら、
ここも、
おうちやな



私もつくりたい
教えて

シートも
持ってきて、
場所広くする？

わかった！
スープいっぱい
あるから、
おかわりしてね

できたら
おうちに
運ぶわ！

ごちそういっぱいや
レストランみたい！

それいいな
サクラいっぱい
やもんな



『サクラレストラン』
にしよう！





うわあ、
ピンクに
見える



こっちに来て、
きれいやで！



見て、見て！
きれいな影が
できてる！

外でも
いろんな
場所に影が
映るな～



見て！
ここにも
映ったよ

お日様出て
ないから？
早く出て～!!

今日は、
影映らんな
何でやろ？



ねえねえ
影で
遊ぼうよ！



離れたら影が
大きくなるで！
何か、色薄いなあ

影遊び
したいなあ

影で
お話しよう
あれ？
D君の影、
小さいなあ



みんなと
同じ
大きさや！



部屋の中でも、
お日様ある
みたいやな～



影の背が高くなった！
「アルプス一万尺」の
手遊びしよう



こっちから
見ると、
映画みたい！
大女の
登場だ～！

先生がいつもクイズ出してくれるけど、今度、僕らもクイズ出したいな！



そりゃな

自分たちでクイズつくろうよ

どんな問題にする？

一緒につくろう！



難しいのと、やさしいのと、普通のをつくろうよ

じゃあ、ヒント言うで…



ヒント出しすぎたらおもしろくないで

え〜！もっとヒントちょうだい！

え〜難しいなあ。

考えた問題出してみたい？



ヒントがいるんちがう？

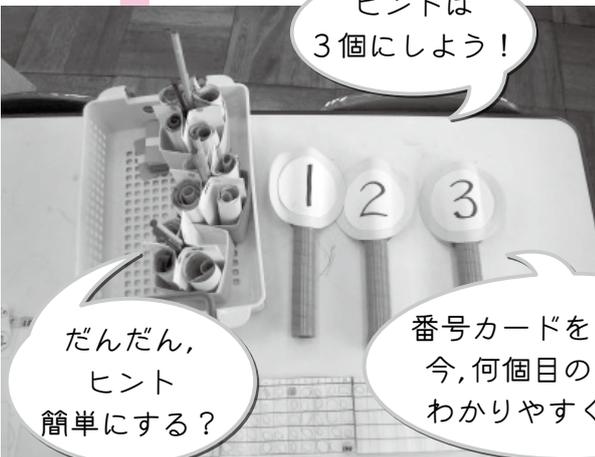
2つ目のヒントは、大きくなったら赤とか黄色になります

今のヒント簡単じゃない？



はい！もう、わかった！すぐ答えてもいい？

ヒントは3個にしよう！



だんだん、ヒント簡単にする？

番号カードをつかって、今、何個目のヒントがわかりやすくしよう！



倒れないように
そおーっと…
気を付けて!

もっと高く
したいわあ

みんなのを
使って
高くしようよ



どうしたら
高くできる
かな?

1人ずつ
順番に積むのは、
どう?

それがいい
誰から
する?

崩したら
交代する?

じゃんけんで
順番決めよう!



こんな積み方は?
倒れにくいよ

今度は
壊れんように
したいな

高く
なったら
どうする?

4本ずつ
置いていこう!

先生に
抱っこして
もらおうよ

椅子に乗ったら
いいんちがう?



Cちゃんは
上手やから
高いところを
して!

わかった
でも、もっと上は
手が届かないよ

椅子に乗ったら
すごく
高くできた!



(1) 幼児教育と小学校教育のつながりイメージ

幼児期の子供たちは、遊びを通して様々なことを学んでいます。教育方法や学び方は違いますが、小学1年生からが教育のスタートではありません。「**学びの芽生え**」を教科等の学習につないでいきましょう。

自然との関わり・生命尊重
社会生活との関わり

- ・ あっ、草むらにバッタがいた
- ・ コオロギも発見
- ・ ぼく、バッタを2匹見つけたよ
- ・ これもバッタ？
- ・ 色が違うよ
- ・ 捕まえて、虫かごに入れよう
- ・ さっきのは、バッタなのかな
- ・ 図鑑で調べてみよう



虫の名前や飼い方など、興味をもったことをすぐに調べることができるように、手に取りやすい場所に絵本や図鑑を置いておく…そんな環境づくりを大切にしています

自然との関わり・生命尊重
思考力の芽生え

- ・ ナイロン袋の中で、オシロイバナをつぶすと、赤い色の汁が出てきたよ
- ・ 紫のアサガオをつぶすと、指が紫色になったよ
- ・ わあ、きれいな色だね
- ・ ぼく、紫のアサガオの花をいっぱいとってくる
- ・ すり鉢でごしごししよう
- ・ 色水にして、ジュースをつくろう
- ・ ぶどうジュースができた
- ・ オレンジジュースもつくりたい
- ・ マリーゴールドの花でできるかな
- ・ できた！でも、薄いからもっと濃くしたいね
- ・ ジュース屋さんをしよう



自然との関わり・生命尊重
思考力の芽生え

- ・ あっ氷だ、触ってみよう
- ・ 冷たい！
- ・ あっ、割れちゃった！
- ・ 池にも、薄い氷がはっているよ
- ・ ぼくたちも氷をつくりたいな
- ・ 花を入れて、きれいな氷をつくろう
- ・ ぼくは、ゼリーのカップで星の形の氷をつくろう
- ・ どこに置こうかな
- ・ 寒いところがいいよね
- ・ 太陽が当たらないところは…

不思議さや面白さを感じ、考えたり予想したり工夫したりする体験をしています

自然との関わり・生命尊重

- ・ 植木鉢に、何を植えよう
- ・ 好きなもの植えたい
- ・ 前の年長組さん、オクラを植えてた
- ・ トマトも植えてた
- ・ 私、トマト好き
- ・ 年長さんのつくったトマト、給食で食べたらおいしかった
- ・ ぼくは、トマトが苦手だから、ピーマンがいいな～
- ・ ピーマン、ナス、キュウリ…
- ・ ぼくは、ナスがいいな





新しい友達と園・所で経験してきたことを共有しながら、安心して小学校生活がスタートできるよう、授業の展開を工夫しましょう

小学1年生
の姿

教科:生活科

植物を育てることを通して、育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しみをもつ活動

1

本時の目標

育てたい花を決め、元気に育つようにと願い、花の種を植える



2

主な学習活動

point

1 幼児期に花を育てた経験を参考にしながら育てたい植物を決める

「赤いアサガオの花で、色水遊びをしたよ」
「アサガオは、赤や青、紫のきれいな色の花が朝に咲くよ」
「保育所の時、僕の顔より大きなヒマワリの花がさいたよ」
「オシロイバナの種は、黒くて丸い形だよ」
「フウセンカズラの種はハート型だよ」



どんな花を咲かせたことがあるか、それでどんな遊びをしたかなど、幼児期の経験を喚起させ、どんな種類の花を育てたいかを自由に出し合う

2 種との出会いを絵や言葉で表現する

「2年生のお兄ちゃんにもらったアサガオの種、スイカみたいな形をしているね」
「ヒマワリの種って、しまの模様があるよ」
「ぼくの〇〇、早く芽を出してね」
「私のアサガオ、何色の花が咲くかな、楽しみ」

幼小の子ども同士の交流等で、アサガオの種をプレゼントし、それを活用する方法もある

愛着をもって、種まきができるように、種との出会いを大切にす

3 種の植え方を確認し、種をまく

「どれぐらい土を入れようかな」
「ふわふわの土のおふとんをかぶせてあげるね」

4 継続的に栽培をすることを想定し、種まきをした鉢をどこに置くかを考える

「お花はお日様がいっぱい当たる
ところが好きだから、〇〇の近くに置こう」

幼児期に植物を育てた経験を生かし、日当たりのよい場所、水道に近い場所、ボール遊び等で花が倒れない場所等、自分なりに考える最良の場所に置く

5 自分の考える場所に鉢を置き、水やりをする

「毎日、水やりをするよ」
「元気に育ててね」

「元気に育ててほしい」
「たくさん花が咲いてほしい」等の願いを大切に、栽培活動をスタートする

6 振り返りをする

幼稚園や保育所, 認定こども園でどんな
体験をしているのかな?



乳・幼児期 の姿

豊かな感性と表現 言葉による伝え合い

【油粘土・小麦粉粘土・スライム・寒天遊び等】

- ・ わあ, おもしろい
- ・ 柔らかい
- ・ ぐにゅぐにゅしてる
- ・ ぷにゅぷにゅしてる
- ・ 気持ちいい
- ・ 丸めるとおもちになった
- ・ おだんごいっぱいつくろう
- ・ びゅ〜んとのびるね
- ・ 長〜く伸ばして, へびをつくろう



※乳児期には, センサリーバック(ファスナーつきのプラスチックバックに洗濯のりやゼリー, ボタンやスパンコールなどを入れたおもちゃ)やスライムマット, ウォーターマット等での感触遊びや身近な素材に触れることで, その心地よさに浸る体験をしています

草・葉・実・砂・
土・石・箱・カップ・
牛乳パック・
バケツ等

子供がイメージを広げたり, そのイメージを表現したりできるような魅力ある素材が豊かにある環境をつくっています

色水
遊び

泡遊び

ボディー
ペイン
ティング

スタンプ
遊び

豊かな感性と表現 言葉による伝え合い

【砂遊び 泥遊び】

- ・ プリン, つくったよ
- ・ 3つできた
- ・ ○○さんの分もつくったよ
- ・ 一緒に食べる?
- ・ 私も, ケーキをつくろう
- ・ 花びらと葉っぱを飾ろう
- ・ もっと, いっぱい飾って大きなケーキをつくろうよ
- ・ 花や葉っぱ, 実を飾ったら, 素敵なケーキができた
- ・ おいしそう
- ・ みんなでパーティーしよう



豊かな感性と表現 言葉による伝え合い

- ・ テレビでみた○○の曲で, みんなで踊りたい
- ・ ○○の曲, あるかな
- ・ 私もやりたい
- ・ 一緒に踊ろう
- ・ ぼくも教えて
- ・ いいよ, 一緒に踊ろう
- ・ このダンスのスカートをつくろう
- ・ 頭につける飾りもつくろうよ
- ・ ひらひらテープを付けてかわいくしよう



かいたり, つくったり, 踊ったりすることを楽しみながら, 自分の思いを表現したり伝えたりして遊ぶ体験を大切にしています

小学校でどんなことをしたいのかな？
子供の思いをひき出そう！



小学1年生
の姿

教科: 図画工作科

どろどろ絵の具を使って、指や手のひらで表現する活動

1

本時の目標

どろどろ絵の具を使ってイメージを膨らませながら、自分の描きたいものを表現する

2

主な学習活動

1 幼児期に行った絵の具を使った遊びを思い出す

「絵の具をいっぱい体につけて遊んだよ」
「色水をつかってジュース屋さんをしたよ」
「野菜を切ってスタンプ遊びをした」

point

幼児期に体験したこと
と重ね合わせ、自信を
もって活動できるように
する

2 どろどろ絵の具をつくり、指を使って、様々な線を描くことを楽しむ

「液体粘土と絵の具を混ぜると、どろどろ絵の具ができたよ」
「私、緑色が好き」
「絵の具を手や指に付けてみよう」
「ぬるぬるして気持ちいい」
「指でトントンすると、点がいっぱいできたよ」
「2本の指でクルクルの線を描いたよ」

自由に表現しやすいよ
うに、床等の広い場所で
活動できるように環境
を設定する

教師が率先して楽しむ
姿を見せ、のびのびと活
動できるようにする

3 イメージを膨らませて、自分が表現したいことを描く

「わあ、恐竜に見える」
「ぺたぺたぺた、葉っぱの国だ」

指で描くのって
気持ちいい

おもしろい形が
できてきたよ

4 振り返りをする

○友達の仕事の工夫やよさを共有する
「指で、トントン、おもしろい」
「絵の具が混ざって、新しい色がつく
れた」
「〇〇くんがつくったのは、点々が
いっぱいあって、きれい」

児童の工夫を認め、紹
介し、いろいろな表現を
体験できるように言葉
がけをする





「**幼児教育と小学校教育のつながりイメージ**」は、幼児期の経験が、
小学校教育にどのようにつながるのを示した一例です。

ここで示した幼児期の活動や小学校の学習だけが、つながっている
というものではありません。他にも、**幼児教育と小学校教育をつなぐ
活動や学習がたくさんあります。**

5歳児 の姿

思考力の芽生え

数量や図形、標識や文字など
への関心・感覚



- ・〇〇くん、深く掘ってるな～
- ・ぼくも掘ろう
- ・砂場で掘りっこ競争だ
- ・穴が大きくなってきたね
- ・こっちは、大きな山ができた
- ・水を流すと、山に道ができた
- ・よし、ここに水を入れて池にしよう
- ・ぼく、この入れ物で水を入れてくる
- ・1杯、2杯、3杯…
- ・どうして？ 水がなくなっていくよ
- ・こっちのバケツの方が大きいから、これで水を入れようよ



遊びの中で「1, 2, 3杯…」 「大きい・小さい」と、数量
や大小の感覚を身に付けたり試したりする中で、新
しい発見につながる経験をしています

協同性 豊かな感性と表現

- ・この前、先生に読んでも
らった「オオカミと7匹
のこやぎ」の劇ごっこを
しよう
- ・何になろうかな
- ・ぼく、オオカミになるよ
- ・時計や、かくれるものをつくろう
- ・ぼく、時計をつくるよ
- ・私も一緒につくるね
- ・オオカミが出てくる時は、どんな音を鳴らそう
かな
- ・最後の楽しいダンスを考えよう



みんなでアイデアを出し、お話を考えたり想像した
ことを表現したりして、劇遊びを楽しんでいます

数量や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚

- ・やったあ、私のトマト、赤い実がなった
- ・やっと、食べられる
- ・よかったね、おいしそう～
- ・トマト3個採れたから、家に持って帰ろう
- ・4人家族だから1個足りないな
- ・ぼくは、昨日2個採れたよ
- ・明日は、何個採れるかな
- ・楽しみだな～



言葉による 伝え合い

【クラスの集まり(発表)】

- ・楽しかったことやうれしかったことを出し合う
「縄跳びが跳べるようになりました」
「何跳びですか」
「前回し跳び、5回跳べました」
「こま回し、〇〇さんに教えてもらって、回せま
した」
「どんなこと、教えてもらったの」
「1回、回してみて」

言葉のやり取りの楽しさを感じ、相手の話を聞いて
理解したり共感したりする経験を重ねています



子供たちは、幼児期に**試行錯誤しながら、自分の思いや願いの実現に向け、学ぶ力をつけて**きています

小学**1**年生
の姿

教科:算数科

直接比べたり、他のものを用いて比べたりして、かさを比べる学習

1

本時の目標

どの容器に水が一番多く入るか、比べ方を考える

2

主な学習活動

1 どんな問題かな

○3種類の容器を提示し、どの容器に水が一番多く入りそうかを話し合う



「(i)は、見ただけで小さいよ」
「(a)と(u)は、分かりにくいな」

2 自分で考えよう

**(a)と(u) どちらにみずが おおくはいるか
くらべかたを かんがえよう**

- ① 一方に水を満たし、その水を他方に移して比べる
- ② 別の同じ容器に入れて、水の高さを比べる
- ③ 1杯, 2杯, 3杯…と「コップいくつ分」で比べる

3 みんなで話し合おう

○どちらの容器に水が多く入るか、比べ方を発表する
「(a)に水をいっぱい入れて、(u)に入れてみると、あふれたので、(a)の方が多く入る」
「(a)も(u)も大きな入れ物に水を移すと、水の線が(a)の方が高かったので、(a)の方が多く入る」
「(a)はこのコップ(小さい容器)5杯とあと少しだったけど、(u)は4杯と半分だったので、(a)の方が多く入る」

4 たしかめよう

○自分の考え以外の様々な比べ方をする

point

幼児期の生活や水遊び等の経験から興味を持たせ、問題場面を設定する

3種類の中から、どの容器に水が一番多く入るのかを考える中で、一見しただけでは分からない2つの容器にしぼり、どちらに水が多く入るか、比べてみたくなるよう意欲を喚起し、課題を設定する

様々な大きさの容器や同じ大きさの容器を数多く準備し、かさに直接触れる活動を通して、一人一人の子供が主体的に課題解決できるようにする



友達の考えに触れることで新たな気づきが生れます

実際に、かさに触れることで、量感やかさの概念を豊かにすることから、様々な比べ方を体験できるようにする



子供たちは、感性を働かせ、表現することを楽しんでいます

5歳児の姿

豊かな感性と表現

- ・〇〇に変身しよう
- ・ドレスをつくって、かわいくしよう
- ・変身する時の曲を探そう
- ・どんな曲がいいかな
- ・いろいろな曲(音楽)を聞いてみよう
- ・アニメの〇〇はどうか



豊かな感性と表現

- ・空き缶をたたくと、おもしろい音がするね
- ・こっちの箱をたたくと、小太鼓みたいな音がするね
- ・ペットボトルに、どんぐりを入れて、音を鳴らしてみよう
- ・他にも、楽器をつくろう
- ・音楽隊みたい



遊びの中で、木の枝や空き箱など、思わぬものを自分なりの表現の素材に取り入れることがあるので、様々な素材をすぐに使えよう環境を大切にしています

言葉による伝え合い

数量や図形、標識や文字など
への関心・感覚

【もうじゅうがりにいこうよ】

「もうじゅうがりにいこうよ」
「ともだちだっているもん」
「くま」…
「く ま」は2文字だから、2人組つころう
「パンダ」…
「パ ン ダ」は3文字だから、
〇〇さんと▲▲くんの3人で、手をつなごう



言葉の音を繰り返すリズムの楽しさや言葉の音の響きの楽しさに気付くような環境づくりをし、言葉の感覚を豊かにしています

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

【『大きなかぶ』の劇ごっこ】

「うんとこしょ、どっこいしょ」
「けれども、かぶはぬけません」
おじいさんは、
おばあさんをよんできました…
「うんとこしょ、どっこいしょ」
「それでも、かぶはぬけません」
おばあさんは、まごをよんできました…
「うんとこしょ、どっこいしょ」

教科:音楽科

拍を感じてリズムを打つ活動

1

本時の目標

歌ったり体を動かしたりしながら拍の流れを感じ取る

2

主な学習活動

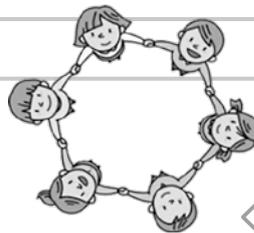
1 既習の曲で歌ったり、体を動かしたりする

♪『かもつれっしゃ』

「あっ、幼稚園で遊んだ」

「かもつれっしゃ、しゅっしゅっしゅっで、長〜い列になった」

「仲間を見つけて、こんにちは…で挨拶しよう」



point

幼児期に習った歌も取り入れて気分をほぐし、それぞれの表現方法を認める

2 ♪『さんぽ』を聞く

「あっ、さんぽ、保育所でも歌った」

「トトロの歌だ、散歩しよう」

「大きく手を振って元気よく散歩しよう」

歌い出したり、動き出したり、踊り出したり…幼児期の経験を喚起させ、自由な表現を見守る

3 「はく」を知る

○指導者の拍打ちに合わせて、拍を打つ

○「拍(はく)」という言葉を知る



4 「なまえあそび」をする

○名前を呼ばれたら、手拍子のリズムに合わせて

返事をしながら、拍を打つ(「●●さん」→「は あ い」)

○グループになって「なまえあそび」で拍を打つ

○「●●●」に入る3文字の好きな食べ物に関わる言葉を見つける

○「●●●」に入る3文字の好きな果物の名前を入れて、拍打ちリレーをする(「バナナ」→「りんご」→「イチゴ」)

3文字の言葉のヒントとなるよう、絵カードや言葉カードを用意する

子供たちのアレンジや、工夫を取り入れて、クラスで拍打ちを楽しむ

5 振り返りをする

身近な言葉で拍を打つ中で、パイナップル等促音や拗音・撥音が入る言葉の拍打ちに興味をもった場合は、発展的に取り入れる

(2)合科的な指導の実践事例

合科的な指導

- 各教科のねらいをより効果的に実現するための方法の一つ
- 単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの

①国語科「どうぞよろしく」・生活科「いちねんせいになったよ」を組み合わせた実践事例

学習のねらい

- ◆国語科
 - 「みんなと仲良くなるために、自分の名前を書いて、名前カードづくりをすることができる」
 - 「名前カードを見せながら、自分のことを伝えたり、友達のことを聞いたりして、楽しくやり取りができる」
(時数2/3)
- ◆生活科
 - 「友達の顔や名前を覚え、友達とかかわることに関心を持ち、仲良く遊ぼうとする」
(時数1/3)

本時の流れ

国語科		生活科
<p>●主な学習活動</p> <p>★…予想される児童の言動</p>	<p>●指導上の留意点</p> <p>☆…児童への手立て</p>	<p>●主な学習活動</p> <p>★…予想される児童の言動</p>
	<p>●一人一人の側に行って児童とやり取りをしながら、楽しい雰囲気づくりをする。</p>	<p>導入</p> <p>①「あなたのおなまえは」の歌遊びをして、自分の名前を言う。(10分)</p> 
<p>ともだちの なまえを おぼえて なかよくなろう</p>		
<p>展開</p> <p>②名前カードをつくる。 (10分)</p> <p>★名前が書けなかったり、文字をきれいに書くことにこだわりすぎたりして名前を書けない。</p>	<p>●名前を書くことは個別指導が必要な場合があるので、机間指導しながら、子供の様子を丁寧に見取る。</p> <p>♡安心感</p> <p>☆机に貼ってある名前カードの文字を見ながら書くように声かけする。また、書けない文字を教師が薄く書き、それをなぞって書くように支援する。</p> <p>☆名前を書き終わった児童には、自分のことを知ってもらうために、自分の似顔絵や、好きな食べ物・スポーツなどの絵も描き、工夫をするよう声かけする。</p>	<p>幼児期に親しんだ歌遊びをすることで、児童が安心して学習をスタートできるね。</p> <p>子供の書こうとする気持ちを大事にすることが必要だね。</p>

<p>●自己紹介の仕方を知る。 (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">自己紹介の仕方</p> <p>おはようございます。 (カードを見せながら) 私の名前は、○○○○です。 私の好きな食べ物は、○○ です。 よろしくね。 (二人とも終わったら) 握手をする。 次の友達を見つける。</p> </div> <p>●自分の名前カードを持って、友達と自己紹介をし合う。(15分)</p>	<p style="text-align: center;">③自己紹介をする。</p> <p>●実際にやりとりし、自己紹介の仕方を示す。</p> <p>●話すときは、聞き手の顔をきちんと見て話すように、また、聞くときは、話し手をよく見て聞くように声かけする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>それぞれの活動時間を10~15分に設定し、具体的な活動を行うことで、子供たちの興味・関心を継続させることができるね。</p> </div> <p style="text-align: center;">♡安心感</p> <p>☆できていないペアには、側で見本を見せたり、寄り添って一緒にやってみたりする。</p> <p>☆一人である友達に声をかけて、自分から自己紹介するように促す。</p>	<p style="text-align: center;">楽しく自己紹介ができるような雰囲気づくりをすることが大切だね!</p>  <p>★友達づくりに不安になる。</p>
<p style="text-align: center;">④振り返りをする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>★もっとお友達の名前を知りたいな。 ★みんなと仲良くできた。</p> <p>★○○ちゃんと初めて話せたよ。 ★○○くんの好きな食べ物は、バナナなんだって。私と同じだな。</p> </div>		

♡安心感

スタートカリキュラムを編成する上で、入学直後の子供たちが、安心感をもちながら、活動できるように「児童への手立て」を考えています。

授業を
振り返る
視点

- 友達に知ってもらいたいことを考え、自己紹介し合うことができたか。
- 友達の顔や名前を覚え、約束を守りながら友達と仲良く遊ぶことができたか。
- 歌遊びは、自己紹介する活動への意欲につながっていたか。
- 自己紹介を取り入れることで、新しい友達と意欲的に関わることができていたか。

実践を終えて

【スタートカリキュラム】の視点から

- 週のねらいの「友達や先生と仲良くなろう」に沿った授業展開を行うことができた。
- 幼児期に慣れ親しんだ歌に合わせて自分の名前をこたえていくことは楽しかったようで、大きな声で発表できていた。
- 児童への手立てを綿密に準備しておいたので、子供たちが安心感をもちながら活動できていた。

【合科的な指導】の視点から

- 自分の書いた名前カードを使い、自己紹介をする学習の流れにすることで、名前をカードに書くことの必要性を子供たちが感じられる展開となり、意欲的に活動できた。

○○小学校のスタートカリキュラム
〈週のねらい〉

スタートカリキュラム編成委員会で、週のねらいを決めている。

【1週目】

安心して学校生活をスタートさせよう

【2週目】

友達や先生と仲良くなろう

【3週目】

学校生活の約束や学習のルールを覚えよう

【4週目】

学校生活の約束や学習のルールを守ろう

【5週目】

みんなが集まる場所にあった

学習のルールを守ろう

【6週目】

休み時間と授業時間を区別しよう

【7週目】

運動会に向けて協力してがんばろう

この活動が
学校探検での
担任以外の教職員や
上級生との交流にも
生かせそうだね!



スタート
カリキュラムでは、
週のねらいを決め、
それを達成するために
授業の内容等を工夫することが
大切だね



⇒『和歌山県幼児教育推進計画』を進めるための手引き』P22～23参照

②国語科(ひらがなの書き方)・音楽科(なまえあそび)を組み合わせた実践事例

学習のねらい

- ◆国語科 ○「文字の外形を理解し、外形に注意して書くことができる」
○「筆順を理解し、筆順に従って書くことができる」 (時数1/2)
- ◆音楽科 ○「言葉のリズムを感じとって『なまえあそび』のリレーを楽しむことができる」
(時数1/2)

本時の流れ

国 語 科	音 楽 科
<p style="text-align: center;">●主な学習活動</p> <p>★…予想される児童の言動</p>	<p style="text-align: center;">●指導上の留意点</p> <p>☆…児童への手立て</p>
<p style="text-align: center;">●導入</p> <p>①ひらがなの学習が始まることを知る。</p>	<p>●これから言葉の学習をする上で必要な「ひらがな」を学んでいくという期待感をもたせる。</p>
<p>「く」のつくことばをたくさんみつけよう</p>	
<p style="text-align: center;">●展開</p> <p>②「く」のつく言葉集めをする。</p> <p>★くつ、くり、くまなど</p> <p>③「く」の筆順を空書きで確認し、練習する。</p> <p>④「く」のつく言葉を読む。</p>	<p>●挿絵を参考にしたり、友達や先生の名前、身の回りの身近なもの結びつけて、言葉を連想できるようにする。</p> <p>●筆順を意識できるように、唱えながら書くようにする。</p> <p>●「とめ」を意識できるように「とめ!」と、動作に合わせて声をかける。</p> <p>●「く」のつく簡単な言葉で、手拍子を確認する。</p>
	<div style="border: 2px solid #e91e63; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">関心を深めたり 楽しく語彙を増やしたり できるように、 音楽科の「なまえあそび」の 活動を取り入れて いるんだね。</p> </div> <p>⑤自分の言いたい「く」のつく言葉を選んで、「なまえあそび」をする。</p> <p>●選んだ言葉をリレー形式で一人ずつ、つないでいく。</p>

	<p>☆難しそうな言葉は、みんなで手拍子を打ってみる。</p> <p>☆選んだ言葉を聞き、真似できるように手本を見せる。</p> <p>♡安心感</p> <p>☆選べない児童には、友達と同じ言葉でもよいことを知らせる。</p>	<p>★手拍子が打てない。</p> <p>★言葉を選べない。</p>
<p>「へ」のつくことばをたくさんみつげよう</p>		
<p>⑥「く」と同じように進める。</p>	<p>ひらがなの学習をする上で同じように展開することで、子供たちは安心して活動に取り組めるね！</p>	
<p>⑦振り返りをする。</p> <p>●学習したひらがなを、「ひらがな表」に貼る。</p>	<p>●言葉に対する関心を深めるために、見つけた言葉を認める。</p> <p>●学習が進むにつれ、たくさんの言葉を集められるようになってきたことを子供たちと共有できるような振り返りをする。</p>	

授業を振り返る視点

- 筆順を理解し、筆順に従って書くことができたか。
- 文字の外形を理解し、外形に注意して書くことができたか。
- 筆順や、字形についての言葉がけや動作は、子供たちの活動に効果的に働いていたか。
- 手拍子に合わせた「なまえあそび」の活動を楽しんでいたか。
- 「なまえあそび」を取り入れることで、言葉への関心を深めることができていたか。

実践を終えて

【スタートカリキュラム】の視点から

.....

○言葉集めは、園・所でも経験していたようで、積極的に挙手し、発表する姿が見られ、指導の後半になってもその姿は続いていた。幼児期の経験が生かされた。

幼児期の経験が小学校の学びにつながっているね！



【合科的な指導】の視点から

.....

○言葉集め(国語科)となまえあそび(音楽科)を組み合わせることで、座って文字を書くだけの活動にはならず、楽しみながら学習を進めることができた。

○子供から出た言葉を板書する際に、「なるほど。よく思いついたね。」と認めるようにした。こうすることで児童は「友達と違う言葉を考えよう。」「みんなが驚くような言葉はないかな。」と、意欲がわき、活動に主体的に取り組んでいた。

第 4 章

幼児教育と 小学校教育がつながる

1 子供同士の交流

(1) 笹飾りをつくろう

ねらい

- ◆5歳児／互いに思いを伝え合いながら、1年生と一緒に活動する楽しさを味わう
- ◆1年生／友達や5歳児と協力しながら季節の行事を楽しむ(特別活動)

場 所 1年教室

事前準備 打合せ【6月〇日(水)16:00～】

教師, 保育者の役割分担

配慮を要する子供への対応

- A君は, 前回の交流で教室に入れなかったの
で, 今回も難しいかもしれない。その時には, A
君の安心できる場所で様子を見ます。
- B君は, 環境が変わると落ち着かないことがあ
るので保育者が側について様子を見ます。
- 少し早い時間から学校に行って, 図書室で絵
本を読むようにします。休み時間に職員で準
備しましょう。

準備物 ・ 笹(人数分) ・ 折り紙・パス・のり
・ はさみ・テープ ・ 椅子(5歳児用)

- 子供達に本物の笹を見せ, 触れる経験をさせ
たいので, 人数分の笹を用意します。

活動の流れ ①集 合

- ・チャイムと同時に, 1組と
2組に分かれて教室へ

②挨 拶

- ・みんなで
- ・自己紹介(1年生と5歳児の二人組で)

③活動の説明



配慮を要する子供に関
して, 実態を伝え合い支援
の方法を共有することは,
その後の指導にも生かさ
れ, 子供の安心につなが
るね

打合せで, 子供たちに
どんな経験をさせたいの
か, 十分に話し合うことが
大切だね

おねえちゃん
つくるのが
楽しみだよ!



④二人組になって、活動

- ・つくり方を相談しながら笹飾りをつくる。
- ・つくった笹飾りを飾る。
- ・つけ方を迷ったときは、ペアの1年生に相談しながら行う。
- ・飾った笹を近くの友達に見せながら、思いを共有する。

うまくつけられないよ



⑤終わりに

- ・二人組で協力したところ、楽しかったことなど、感想を伝え合う。
- ・互いにお礼の気持ちを伝え、次回の交流を楽しみにして、お別れをする。

笹の葉を持って
おくから、ここに
通してみて!

成果

- 教室で行う交流は今回が2回目だったので、1回目よりも場慣れしている姿が見られ、リラックスして活動ができた。
- 二人組での関わりだったので、時間が経つにつれて、お互いを思いやったり、声をかけ合ったりする様子が見られた。
- 笹を人数分用意したことで、本物の笹のにおいや手触りなどを個々にじっくり感じる事ができた。

今後に向けて

- 活動の時間配分について、より綿密な打合せが必要だった。
- 交流場所が小学校だったため、準備をスムーズに行えなかった場面もあり、任せることが多くなった。事前の打合せで、保育者の動きをもう少し話し合っておく必要があった。
- 道具の順番待ちが見られた。幼稚園からもパスなど人数分準備していけばよかった。
- 1年生がつくった飾りをもらった園児もいた。幼稚園でつくった飾りを持参し、交換してもよかった。



互いに学びのある交流活動にするためには、事前の打合せがとても重要になってくるね。それぞれのねらいを達成するためにはどのような活動で、どんなものが必要なのか、また、どんな支援や声かけをするのかなどを話し合っておくことが大切なんだね!

(2)あきランドであそぼう

ねらい

- ◆5歳児／秋の自然物を使い、1年生と一緒に遊ぶことを楽しむ
- ◆1年生／5歳児を「あきランド」に招き、相手のことを考えながらゲームの仕方を伝えたり、秋の自然物を使って、なかよく遊んだりする(生活科)

場 所 1年教室

事前準備 打合せ

- 幼稚園・小学校ともに地域で拾った秋の自然物を取り入れ、自分なりに工夫したり試したりできるような活動にするにはどうしたらよいか。
- 「遊びコーナー」を始めるために、1年生が5歳児に向けて分かりやすい言葉で説明できるようにするには、どうしたらよいか。

- 準備物
- ・遊びコーナー
(どんぐり迷路, まつぼっくりボーリングなど)
 - ・遊びコーナーカード
(場所と遊びの名前が分かるカード)
 - ・5歳児への遊びコーナーの説明カード
 - ・あきランドの衣装

活動の流れ ①集 合

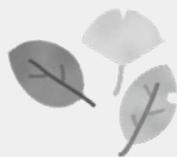
②はじめの会

- ・挨拶
- ・活動内容について、1年生が5歳児に伝える。

この活動で、どんなことを大切にしたいのか、それぞれのめあてを、しっかり話し合って共有することが大切だね!

どんぐり迷路やまつぼっくりボーリングは生活科、遊びコーナーの説明カードなどは国語科、あきランドの衣装づくりは図画工作科と、合科的な指導を展開することができるね

遊びコーナーに、5歳児がつくったものも置いて、お互いに遊び合うという活動も考えられるね



「活動内容を5歳児に分かりやすく伝える」という相手意識をもつことは、主体的に活動することにつながるね

<遊びコーナーそれぞれの場所と遊び方の説明>

- ・まつぼっくりボーリング
- ・どんぐり迷路
- ・おなもみダーツ
- ・どんぐりごま
- ・まつぼっくり的当て



これは、どうやって遊ぶの？

どんぐりをころころ転がすんだよ！
ここがゴールだよ

③1年生が考えてつくった遊びコーナーに分かれて、一緒に遊んで楽しむ



やったあ、5点！
次こそ、10点！



10点到2回も
入ったよ！
20点だね

④終わりの会

- ・感想を話し合う。

成果

- 園に戻るとすぐに画用紙やテープを使って、1年生がしてくれたことを模倣したり、自分たちでお店屋さんとお客さんになったりして、遊びを発展させる姿が見られた。また、今まで秋の自然物を遊びに取り入れることのなかった子供もやってみようとする姿が見られた。このことは、小学校での学習に対する親しみや期待をもつことにつながった。(幼)
- 自分たちが、5歳児に楽しんでもらえるように遊びを工夫し、実際に喜んでもらえたことで、自信につながった。またその中で、相手に分かるように話そうとする態度や気持ちを培うことができた。(小)

今後に向けて

- 今回の『あきランドであそぼう』も含め、これまでの交流で築いてきたつながりを生かし、今後さらに個に応じた関わりを想定した交流を考えていきたい。



この活動を通して、5歳児は秋の自然物を工夫して遊びに取り入れる、1年生は相手意識をもって分かるように説明する態度が育つ等、**互惠性(互いに相手に利益や恩恵を与え合うこと)**のある交流になっているね。

(3)小学校体験入学

A町では、町教育委員会が町内一斉に「小学校就学予定児の体験入学」を計画し、町にある4校が、同じ日に実施しています。

ねらい

- ◆5歳児／小学校のことを知り、入学に対する関心と意欲を高める
- ◆1年生／入学してくる5歳児に小学校生活を紹介し、一緒に活動することを通して、自分の成長を実感する(生活科)

場 所 町内の各小学校

事前準備 就学予定児の体験入学調整会議【1月末】

【内 容】	【出席者】
<ul style="list-style-type: none">○目的の確認○実施日程○内容の調整	<ul style="list-style-type: none">○各小学校教頭, 主任保育教諭○町教育委員会 (小学校担当者・幼児教育担当者)

活動の流れ 入学予定の各小学校に行く

①1年生との交流(各小学校で異なる)

〈活動例〉

- ・授業体験
- ・昔遊び
- ・学校探検

- 5歳児と1年生の交流では、昔遊びなどを通して、会話を楽しむ姿が見られた。
- 給食の時間には、食器の片付け方や飲んだ後の牛乳パックの畳み方を小学生が優しく教えてくれ、5歳児も自分でできたことを喜んでいました。

②校長先生の話聞く

- ・写真を見ながら、楽しい学校生活や行事について、話を聞く。

どんな内容にするのか、幼小で話し合うことが大切だね！

調整会議に、教育委員会の指導主事などが同席し、町として一貫した取組をすることで、幼小連携・接続が進んでいくね

見て見て！
できたよ！



私の
好きな絵本、
見つけたよ！



地域の
おばあちゃんに
教えてもらったん
だよ

お昼休みにも
読めるし、
おうちにも借りて
帰れるよ

○入学予定児の様子を知ることができ、その後に実施することも園との引継ぎ会でも、より具体的で有益な協議を行うことができる。また、こども園と小学校で、カリキュラムの編成や入学後の指導を行う上で、大変参考になる。



小学校の校長の声・感想



- 子供たちは、学校紹介の写真を見て、学校の活動や小学生の様子に興味を示し、時には「やってみたい」「楽しそう」と嬉しい反応を見せてくれた。授業体験や学校探検も入学を意識する意味で効果的であった。
- 1年生と園児との交流会では、園児が楽しめるようにと、様々な手づくり遊びを用意し、園児を気遣う1年生の姿が見られた。園児たちに学校への興味をもってもらうばかりでなく、1年生にとっても上級生になるという意識や思いやりの心が育つよい機会となっている。
- 入学してくる子供たちが、園でどのような経験をし、どのような力が育ってきたのかを把握することが大切。**小学校入学が0(ゼロ)からのスタートではなく**、園での教育の上に小学校教育を重ねていくという意識をもち、子供の力をしっかりと伸ばしていきたいと考える。



こども園の担任の声・感想



- 教室に入った時、よい緊張感をもち、小学校の先生の話聞いていた。実際に入学する小学校の先生に話をしてもらうことで親近感ももてたように感じた。
- 学校で過ごす時間をもつことができ、小学校生活をより楽しみにし、不安だった子も期待がもてるようになった。交流の場が小学校を知る上でとても大切だと感じた。
- 家に帰って子供が学校で体験したことを嬉しそうに話すことが、保護者にとっても安心につながり、家族で入学を楽しみにできるようになった。
- 交流する1年生は、久しぶりに会うお兄さん・お姉さんであることから、子供同士、親しみをもって遊ぶ姿が見られた。
- 和式トイレ、手洗い場等を実際に使うことで、入学してからも安心して過ごせるための心構えができよかった。



実際に小学校を訪れて、教室や体育館を見たり、1年生と一緒に活動したりすることは、5歳児の小学校入学に対する不安をやわらげることに結びつくんだね！
 地域によって、就学する小学校への体験入学ができない場合があるね。
 自分が就学する小学校でなくても、小学校の生活を体験しておくことは大切だよね。

(4)入学前に通学路を歩いたよ

ねらい

- ◆ 5歳児／入学への期待をもち、通学路を知る
交通ルールを守り、安全に気を付けて歩く

- 場 所**
- ・ 保育園から小学校までの通学路
 - ・ 小学校校庭

- 事前準備**
- ・ 通学路に危険な場所はないか、前もって確認しておく
 - ・ 引率職員の配置を決めておく
 - ・ 小学校に連絡をし、校庭で遊ぶ許可をとる

- 準備物**
- ・ 旗や笛
 - ・ 携帯電話
 - ・ 救急セット

- 活動の流れ**
- ① 集合, 小学校へ出発
 - ・ 小学校までの道のりについて知る。
横断歩道や歩道のない箇所歩き方
川沿いなどの危険な箇所
道路標識 等

車や自転車での送迎が
主な園・所での生活と大
きく変わり、小学校では徒
歩での通学になります

通学路を歩く体験を通
して、安全について自分で
考え、行動できる力を身に
付けることも大切だね

川に
落ちないように、
あんまり端に寄ったら
だめだね



一列に
ならないと!

白い線から
はみ出したら
危ないよ!



手を挙げて、
右・左・右
を確認



②小学校に到着

- ・小学校にある遊具の遊び方を知る。
- ・運動場で楽しく遊ぶ。

小学校の休み時間に合
わせて行くと、小学生と一
緒に遊ぶなどの交流活動
もできるね！

小学校の
運動場は
広いなあ！



あと10回で、
替わってね



危ないから、
ここで待とう！

③保育園へ出発

④帰園

成 果

- 事前に横断歩道を渡る時の注意を伝えていたので、左右確認や、手を挙げるなど交通ルールを意識して行動していた。
- 道の途中で道路標識を確認し、危険な箇所を伝えることで安全に対する意識を高めることができた。



実際に歩いてみることで、気付くことがたくさんあるね！

小学生に危ないところや、手の挙げ方・確認の仕方などを教えてもらうのもいいね。

交流活動で小学校に行くときには、通園バス等ではなく、歩いて行くのもいいかもしれないね。

また、同じように家から小学校への通学路を歩き、確認することを家庭に呼びかけることも大事だね。

2 職員同士の交流

(1) 幼小での話し合い ～カリキュラム編成にあたって～

■ A小学校は、B幼稚園を併設しており、カリキュラムを編成する以前から、幼稚園の行事に小学生が参加する、小学校の授業に園児を招待する等の交流を行っています。「接続を意識したスタートカリキュラム」を編成するにあたり、次のような取組を行っています。

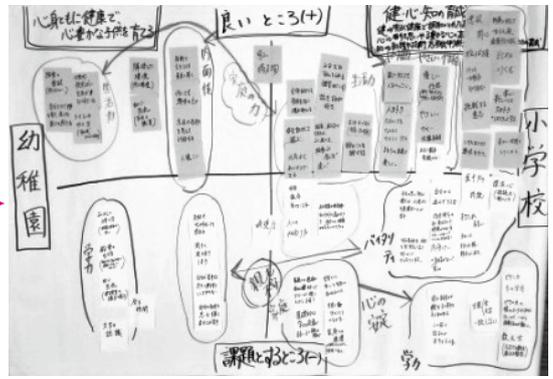
① 「スタートカリキュラム」編成 取組の流れ

① 校務分掌の立ち上げと顔合わせ(4月)

- <小> **スタートカリキュラム検討委員会**
(校長兼園長, 教頭, 現教主任, 養護教諭, 生活科主任, 1年・2年学年主任)
- <幼> **アプローチカリキュラム検討委員会**
(教頭, 教務主任, 現教主任, 年長児担任)

② 小学校児童・幼稚園児の実態整理(7月) -->

小学校・幼稚園の担当で、それぞれの実態を整理し、接続期に大切にしたいこと、伸ばしていきたいこと等の視点で整理



③ 整理したことをもとに、カリキュラム編成(8月～翌年1月)

④ 編成したカリキュラムに、連続性・一貫性がみられるかを点検(2月)

⑤ 小学校・幼稚園にてカリキュラムを提案し、全職員で共通理解(2月)

交流行事の見直し

カリキュラム編成と合わせて、これまで取り組んできた交流行事も見直す

<見直しの視点>

- 全体のバランスと学びの確保(時期・内容・回数)
- 既存の交流が子供主体の活動か
- 新たな交流が可能か

② 「スタートカリキュラム」編成にあたっての工夫

- 職員の異動に関わらず、カリキュラムが継続するよう、**カリキュラム検討委員会のメンバーを考える。**
- 幼児教育が小学校教育にどのように**接続していくのか**を整理し、カリキュラムの接続をより明確にする。
- 新入生が**安心して登校**することができるように、また、入学当初の一日の活動を、カリキュラムの中で、「わくわくタイム」-「うきうきタイム」-「ちゃれんじタイム」と位置付け、小学校の学習にゆるやかに移行できるように考える。

小学校だけでなく、**幼児教育関係者と協議**しながらカリキュラムを編成することが大事だね



- 入学当初は、教科を意識して機械的に評価するのではなく、幼稚園で**培われてきた学びを「見取る」とともに**、小学校生活に「慣れる」「楽しむ」ことを第一に考えながら、小学校の**職員全体で共通理解**を図る。
- 従来は、子供の実態がつかめなまま計画を立てており、小学校主体のカリキュラムになりがちであったので、**幼小での情報交換や入学前の近隣4園・所へのアンケート**で情報を得る。

参考 入学後の指導に生かすため、各園・所の取組や子供たちの興味・関心などを調査

[アンケートの内容]

- ①交流の様子についての感想・意見
- ②子供たちが好きなものや興味・関心をもっているもの
(歌・手遊び・室内遊び・外遊び)
- ③幼稚園・保育所・認定こども園で、年長児後半に取り組み
れたこと (運動・文字や数に関すること・給食・生活)

[近隣園・所へのアンケート]

1. 本校の近隣の園・所についてご感想・ご意見を御記入ください。

所属 〇〇幼稚園

所属の園・所名 〇〇幼稚園

園長 〇〇〇

先生 〇〇〇

2. 幼稚園・保育所・認定こども園で取り組まれていることについて教えてください。

運動 〇〇〇

文字や数に関すること 〇〇〇

給食 〇〇〇

生活 〇〇〇

➤ 「スタートカリキュラム」編成 取組の成果

- 入学前に、**各園・所が取り組む活動内容を把握**することで、これまで培われてきたことが分かり、指導に生かすことができた。
- これまで子供同士の交流に関する協議はしていたが、カリキュラム編成がきっかけとなり、職員同士の話し合いがより深まり、子供の様子や課題等、**子供の成長について同じ視点で考えることができる**ようになった。
- 小学校の教育課程や生活の様子について情報交換することで、子供たちの困り感に気付くことができた。
- カリキュラム編成の取組は手段であり、**本来の目的を見失うことなく**取組を続けていくことが大切である。

➤ 「スタートカリキュラム」編成 取組の課題・今後に向けて

- カリキュラム検討の時期や回数等を、**年間の計画に組み入れることが重要**である。
- カリキュラムを継続させるために、担任同士の関わりだけではなく、**学校・園全体で共有**するための研修会等を企画・検討していく必要がある。
- 今後、**幼稚園で培われた学びが、小学校の学習にどのように結びついていくのか**を考えるための話し合いが重要である。
- 効果的に学習活動を進めるために、**合科的、関連的な指導の工夫を行ってきたが**、合科する際、**授業内容及び時数カウントの仕方等**を検討しなければならない。
- 子供の姿を考慮し、**毎年カリキュラムを見直し、検討**していく必要がある。実践をくり返す中で、具体的な内容を練り上げていくことが大切である。

カリキュラム編成がゴールではなく、子供が主体的に関われる学習活動を工夫することが大事だね



(2)現職教育への参加

■C小学校では、1年生の担任が併設園であるD幼稚園の現職教育に、年数回参加しています。主に、**ビデオカンファレンス**や**フォトカンファレンス**に参加し、幼児の様子や遊びの中の学びの様子について協議しています。

【D幼稚園の現職教育 年間計画より】(1学期のみ記載)

4月	園務分掌 教育主題の設定について 5日	行事計画 栽培計画 行事のとらえ方 について 12日	教育計画の樹立 19日	行事計画及び 行事反省 26日
5月	環境構成について (戸外) 10日	幼児の姿から ビデオカンファレンス (5歳児) 17日	部会総会 24日	行事計画及び 行事反省 31日
6月	環境構成について (園内) 行事計画及び 行事反省 7日	幼児の姿から フォトカンファレンス (4歳児) 14日	学校教育課訪問 21日	部会研究 28日
7月	行事計画及び 行事反省 5日	行事計画及び 行事反省 12日	1学期の振り返り 19日	幼小連携・ 接続について 26日

ビデオカンファレンス

① ビデオ鑑賞



5歳児

地域での
「流しそうめん体験」から



ぼくも何か
流したいな!

② 協議



「筒をつなげよう」
「何を流そうかな」
「どうしたら流れるのかな」
「うまくカーブが作れない」
「つなぎ方を変えてみよう」

試行錯誤している子供の姿や、それを支援する
教諭の動き・声かけの様子などを中心に撮影

工夫

① 活動やビデオカンファレンスの協議のもち方でビデオ撮影の仕方を変える

■活動全体を見たいとき

→定点で撮影

■着目児がいるグループの様子や担任の関わりの様子などを見たいとき

→カメラを移動させながら撮影

② 先入観をもたないために担任は活動について詳しく説明しない

③ 協議では、否定的なことを言わない

④ 時間は、1時間半程度



小学校教諭



- 写真に子供たちのつぶやきを載せるドキュメンテーションのよさを知り、小学校でも子供たちの活動の様子を写真に撮り、つぶやきなどを書き教室に掲示しました。子供たちも、前回の活動について振り返ることができているようです。
- 幼稚園から小学校へ入学してくる子供たちの現状を、より詳しく知ることができます。
- 幼稚園の現職教育の時間が小学校とは異なり、小学校がまだ授業中であるため、途中からの参加になることもありますが、できる範囲の中で参加し、幼児教育について知る大変よい機会になっています。



幼稚園教諭



- 幼児期の学びについて小学校の先生方に理解してもらうために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を用いて、子供たちの様子を伝えるようにしています。
- 現職教育だけでなく、小学校との交流活動の前後にも、子供たちの活動の様子や幼稚園での学びについて、情報交換をしています。



小学校教員が園の保育を参観することは、日程的に難しいけれど、ビデオカンファレンスやフォトカンファレンスをすることで、理解しにくい幼児期の学びや保育者の考えなどをゆっくり聞けるよさがあるね。

(3)保育・授業の相互参観及び情報交換会

<E町の施設設置状況>

■幼児教育施設…こども園 1・保育所 1 ■小学校…3

■E町は、教育委員会と保健福祉課共催で、保育所及びこども園と小学校の情報交換会を年2回開催しています。

第1回目…6月中旬 保育者による小学校の授業参観

第2回目…8月下旬 小学校教員による保育所・こども園の保育参観

第1回 保小情報交換会

日時 令和元年6月〇日 13:50～15:30

場所 E町立F小学校

日程 14:00～ 授業参観 算数【1年】
14:45～ 協議会

出席者 Gこども園(園長・5歳児担当…3人)

F小学校(校長・教頭・1年担任・特別支援教育担当等…5人)

保健福祉課(保健師…5人)

教育委員会(指導主事…2人)

*小学校入学後の成長しつつある児童の様子を、見ていただく機会になりました。



授業風景

友達に自分の考えを説明しています

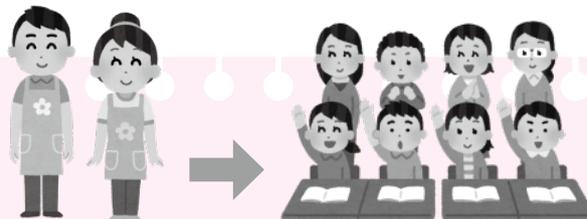
自分の考えを説明しています
理由も言うことができました



<1年生担任から…>

昨年度、保育参観をしてから、保育所等で培ってくれた力を伸ばしたいと思い、毎日指導にあっています。着替えの仕方、お道具箱の片付け方、ロッカーの整理の仕方等、子供たちの活動の姿から多くのことを学びました。小学校では時間割があり苦勞することも多いですが、できるだけ引き継いでいこうと心がけています。子供たちは、保育所で育ててくれた「やる気」をもって入学してきているので、落ち着いて学習できています。指導にあたって「学校では『分からない』と言っていいよ。」ということも、いつも言っています。

保育者の授業参観後の感想より



○発言するときも自分なりに言葉を考えて発言している子供たちの姿を見て、こんなに堂々と話ができるようになってきていることにびっくりしました。先生の授業の進め方、声かけなど全ての場面がとても勉強になりました。

○「**学習参観シート**」満点です。子供たちは、いきいきわくわくした気持ちで楽しく授業を受けていました。授業の内容は工夫がなされ、すばらしいものでした。様々な場面をつくり、45分があったという間に過ぎました。個別の対応もきちんとされていました。子供たちは、自分の言葉で相手に伝えることも上手でした。また、教室も整理されていて、学習マナーもきちんと守れていました。



⇒『**和歌山県幼児教育推進計画**』を進めるための手引き
P36「**学習参観シート**」参照

○先生のにこやかな表情と、ゆっくり・はっきりした声かけが分かりやすく、手づくりの教材で飽きることがなかったです。発問を復唱させたりノートに書かせたり黒板に書いて示したりと、様々な振り返りをしていました。引き算も「○こ食べたら・・・」と「鳥○わ飛んでいったら・・・」と2つの違う場面を示したところを□で囲み、減るイメージを理解しやすいように工夫をしていました。



こども園の先生に授業を見てもらい、大喜びしている小学生

個人ワークの後、席を回って確認し、子供同士で確認したり指名したりと、皆に発言する機会を与えていました。

○始まりの挨拶、姿勢、意見を発表する時の言葉遣いなど、とても入学して間もない子供たちとは思えませんでした。授業でも前に出て黒板に書く、ペアで自分の考えを伝え合う、最後に感想を述べ合うなど、みんなが積極的に参加できる工夫がすごいと思いました。

<E町行政担当者から…>

保育所での育ちや学びを見事に引き継いで、小学校での生活をスタートできていることがよく分かりました。「学習参観シートの参観の視点」を確認しながら授業を参観しましたが、完璧でした。先生の授業における指導方法の工夫から学習環境の整え方、子供たちが安心して学習できる言葉かけ等、全てにおいて先生の細やかな配慮が行き届いていました。保育所及び認定こども園と小学校職員が、子供の姿を通してお互いに敬意をもって有意義な話し合いができました。このような連携・接続を町としても更に推進していくよう努めます。

第2回 保小情報交換会

日時 令和元年8月〇日 9:30~12:00

場所 E町立Gこども園

日程 9:30~ 登園

10:00~ 保育参観

11:00~ 協議会

出席者 F小学校(校長・教頭・1年担任・特別支援教育担当等…10人)

H小学校(校長・教頭・1年担任・特別支援教育担当等…6人)

Gこども園(園長・5歳児担当…4人)

保健福祉課(保健師…4人)

教育委員会(指導主事…1人)

*協議会で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共通の言葉として、
幼児教育について質の高い意見交換ができました。



保育風景



「炭酸は、どうやってつくるの？」
「ふると、いいよ」「サイダーみたい」
「ふったら、炭酸みたいになるんだ」
「炭酸」を考え出した友達に尋ねています
(思考力の芽生え)(言葉による伝え合い)

水遊びで、友達と遊びを工夫しました
「シャワーの中に、虹が見えたよ」
「私も見たい」「入ってください」
シャワーの虹を友達と一緒に発見して大喜び
しました
(思考力の芽生え)(言葉による伝え合い)



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点
に、子供の姿を共有す
ることが大切だね



「雪みたいだね」「ふわふわしているね」
泡で遊びながら、様々な表現が出てきました
(豊かな感性と表現)

ジュース屋さんの看板をかきました
(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)

小学校教員の保育参観後の感想より



- 楽しそうな活動であった。小学校でもこのような活動を取り入れていきたいが、準備等が大変である。遊びの中に、言葉のやり取りや数量関係など様々な学びがあった。
- 子供たちがのびのび活動できていた。保育者が指示しなくても、「ジュース屋」から「色の変化」へと自然に思考が移行した。生活に結びついた活動であった。
- 今日やるのが楽しみだからこそ「始めよう」の一言で皆が協力して活動できていた。子供同士の中で育っていることがよく分かった。
- 全員が、本当によく遊びこんでいた。この遊ぶ力が小学校の学びにつながると思う。幼小で交流活動を考えてみるのもよい。
- 小学校入学を見据えた活動がたくさんあった。歌カード、手遊び歌での数字、保育者の言葉かけの中に言葉や数を意識させる内容がたくさんあった。子供たちの耳に残っていくだろう。小一を意識した活動であった。
- 盛りだくさんの活動を参観できた。このような活動ができるのは、日頃の小さな積み重ねがあるからだろう。保育者の声かけも柔らかかった。一日の生活に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が見てとれた。

<E町の行政担当者から…>

保育者と小学校教員の距離がうんと縮まった有意義な参観ができました。

一人一人の子供の様子はもちろんのこと、保育所やこども園が取り組んでいる幼児期の学びについて「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して、子供たちの活動や保育者の支援から学ぶことができました。

これからも研修の機会を設け、連携・接続を進めていきたいです。多くの小学校教職員に参加してもらえたことに感謝します。



お互いの教育についての理解を深めるために、保育や授業を参観し、**子供の姿を通して、話し合う**ことが大切だね。

各市町村の小学校と幼稚園・保育所・認定こども園の各所管課が連携・協力し、一体的に幼児教育施設と小学校の交流・連携を進めることが重要なんだね。

(4) 保育体験・小学校体験

< I町の施設設置状況 >

■ 幼児教育施設…こども園 1

■ 小学校…4

■ I町では、行政主導のもと、全小学校と認定こども園が連携して、保育・小学校体験を行っています。

目的

幼児教育から小学校教育への円滑な接続に向けて、保育教諭と小学校教諭における相互研修及び研究協議を実施することで、連続性・系統性のある教育の充実を図る。

内容

小学校教諭が認定こども園で保育体験を行う。また、保育教諭が町内の小学校で小学校体験を行う。どちらも、事前研修、現場研修、事後の協議を通して、幼児・児童の実態及び教育内容や指導方法について相互理解を深める。

保育・小学校体験までの流れ

6月 第1回園小連携会議

各学校長、**連携担当教諭**、園長、主任保育教諭が参加し、幼児教育と小学校教育の学びの接続、園小連携の具体的な取組や園児と児童の交流について意見交換を行う。

6月 研修実施日及び参加者の決定

6月～7月

参加者が園・学校に連絡を入れ、事前説明会を行った後、保育体験・小学校体験を行う。



校・園務分掌で、幼小連携主任などを決めておくとよいね!



保育体験

- 説明** 園の概要 保育目標 重点方針
一日の流れ 教育課程
年間指導計画
- 打合せ** 持ち物
体験するクラスでの保育について
- スケジュール** 8:00～16:00 保育体験
16:00～16:30 担任と振り返り
・遊びの場面
・発達の特徴
・環境構成
・保育教諭の働きかけや意図等

小学校体験

- 説明** 学校の概要 一日の流れ 行事
- 打合せ** 持ち物
授業で、指導に加わる場面について
- スケジュール** 8:00～16:00 小学校体験
16:00～16:30 担任と振り返り
・授業について
・子供達の様子
・小学校教諭の働きかけや声かけ等

小学校教諭の感想

保育体験での 子供の様子

自分たちがつくった家などに色を塗る活動をしていた。

赤を塗ったところに、青を重ねて塗る。「むらさきになったよ！」

色を重ねて塗ることで、色が変わることを体験から気付いていた。



◇保育体験を通して気付いたこと

異年齢交流タイムで、5歳児が3歳児を手助けしているのを見て、異年齢交流の大切さを再認識しました。

◇保育体験をしてよかったこと

0～5歳児の活動の様子を通して見ることで、子供達の発達段階がよく分かりました。

◇授業でこう生かす！

授業を組み立てる時に、合科や他教科との関連をより意識するようになりました。

」先生

- 1年生担任
- 経験年数25年
- 保育体験2回目



K先生

- 4年生担任
- 経験年数7年
- 保育体験2回目



◇保育体験を通して気付いたこと

保育者が教え込むのではなく、遊びを通して子供たちが主体的に学んでいました。

◇保育体験をしてよかったこと

自分が勤務する校区の子供たちのことだけでなく、他の地域の子供たちの様子も分かりました。

◇授業でこう生かす！

子供たちが主体的に考え、活動できるような授業を組み立てていきたいです。

保育体験での 子供の様子

年長児クラスでは、当番活動や給食の配膳活動等、小学校につながる活動が多く見られた。

活動後の振り返りなど、自分の思いや考えを発表する機会をたくさん設けていた。

発表の仕方や話し方など、しっかり基礎を築いてくれていると感じた。



保育教諭の感想

L保育教諭

- 経験年数18年
- 5歳児担任
- 小学校体験2回目



◆小学校体験を通して気付いたこと

子供たちがのびのびと過ごし、自分で見通しをもって学習に取り組んでいた。

◆小学校体験をしてよかったこと

小学校での子供たちの様子を話し合う機会となり、大切な信頼関係を築くことができた。

◆保育でこう生かす！

小学校の教育にスムーズにつながっていくような切れ目のない保育を意識する。

◆小学校体験を通して気付いたこと

その時間の学習のめあてを児童が理解し、達成されるようにしていた。また、児童が自分で試したり意欲がもてるような仕掛けが組み込まれたりしていた。毎時間ごとの振り返りも大切にされていた。

◆小学校体験をしてよかったこと

成長の連続性や小学校での学びにつながる幼児期の遊びの重要性を明確にイメージすることができた。先生方と一人一人の成長や園小での取組を話すことで、大切にしていることを伝え合いながら子供のことを考えることができた。

◆保育でこう生かす！

幼児期の豊富な体験が、小学校の学びにつながることを意識し、環境を整えていく。遊びの中での育ちや、その時々のおねらいを常に意識して子供と過ごす。



M保育教諭

- 経験年数15年
- 4歳児担任
- 小学校体験4回目

◆小学校体験を通して気付いたこと

自分が小学生だったときと比べて、その授業で目指していること(めあて)が分かった。また、自分で考える場面が多かった。

◆小学校体験をしてよかったこと

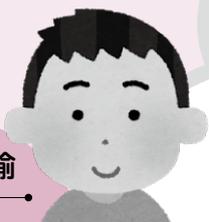
現在の小学校での取組を見て、そこに向けて園のできる基礎となる部分を具体的に知ることができた。

◆保育でこう生かす！

園での活動が小学校につながっていることに改めて気づき、より環境構成を考えたり、援助したりできると思う。

N保育教諭

- 経験年数11年
- 3歳児担任
- 小学校体験4回目





O保育教諭

- 経験年数12年
- 5歳児担任
- 小学校体験6回目

◆小学校体験を通して気付いたこと

子供たちの前で話すときの態度、ふるまい、話し方に気を付ける。学習活動のための準備の大切さ。返事、挨拶、座り方等の基本的な生活習慣を身に付けることの大切さ。こども園での経験を小学校につなげる大切さ。学習につながる体験の大切さ。

◆小学校体験をしてよかったこと

卒園した子供とのつながりが続いていること。小学校の先生方と話しやすくなった。卒園した子供たちの成長が見られたこと。

◆保育でこう生かす！

難しいことを乗り越える体験を保育者が支え、子供の力に変えられるように保育をする。
小学校の先生方の話し方、テンポ、授業の仕方等、保育の場面で生かす。

◆小学校体験を通して気付いたこと

先生と子供たちが互いに認め合い、授業の中で子供たちと一緒に「めあて」を確認しながら進めていた。

◆小学校体験をしてよかったこと

小学校とこども園の違いや通ずるところを明確にできた。

◆保育でこう生かす！

こども園でも、日々の保育にその日のねらいをしっかりとち、保育していきたい。また、小学校では自分の思いを発言する機会を多く設けているので、子供たちの自主性が育っているように感じた。その発言を先生たちもよく認めていたことで、子供たちの自信につながっていたように感じる。こども園でも取り入れて子供たちの成長につなげたい。



P保育教諭

- 経験年数5年
- 4歳児担任
- 小学校体験3回目



一日を通して、保育・小学校体験をすることで、保育や授業だけでなく、給食や掃除など、様々な場面での子供の様子を知ることができるね！

体験することで、お互いの教育のよいところを実感し、自分の保育・教育に生かすことができそうだね。

経験年数や担当歳児・学年に関係なく、保育・小学校体験をすることも大切だね。

(5)お互いの教育から見えてきたこと

本課主催「幼小連携・接続推進のための研修会」の参加者に、保育・小学校体験等を通して学んだことについてアンケートに答えていただきました。

小学校教員

小学校教員の保育体験や保育参観等に関するアンケートより

園・所での保育体験や保育参観、保育者との協議等を通して学んだこと



- ・1年生は小学校の中では学年が1番下で**幼く思っていたが、園では着替えや係活動などもしっかりできていたのでびっくりしました。**それを知った上で、**小学校で積み上げていく必要を実感**しました。
- ・子供の内面に寄り添う見取り方は、園・所の先生はとても上手で学ぶことが多くありました。見取りを生かした保育の仕方は入学時だけでなく普通の授業づくりにも役立つと思います。
- ・こども園では子供たちが主体的にのびのびと活動をしていたので、**小学校でも児童が自ら考え選択し、行動できるような手立てがいる**と思いました。
- ・毎日、時間に追われて授業を進めているので、子供にとって押しつけられた授業になっているのではと感じています。こども園で行っているように、**子供が主体的に楽しみながら学ぶことを小学校でもできたらよい**と思います。
- ・小学校では、学習内容が決まっていますそれを担任等が指導するが、幼稚園や保育所などでは、様々な体験の中で子供たちが自分で学んでいくという点が、大きく違うと改めて感じました。**小学校でも、体験から学べる機会を増やしていきたい**と思いました。

保育者

保育者の小学校への学習参観等に関するアンケートより

小学校の学習参観や小学校教職員との協議等を通して学んだこと



- ・子供たちが**楽しんで学習に取り組めるような工夫**をしていました。**子供の発表や意見を受け止め、より学びが深まるような声かけ**をしていました。
- ・参観日に小学校に行くことで、1年生の最初の姿から2学期、3学期とどのように学んでいるのか、どのように成長しているのかを見ることができ、大変よい機会になっています。
- ・学習参観や運動会で子供たちと出会うことはあるが、小学校の先生とは子供たちの様子を話し合う機会はないのが現状です。送り出した**子供たちの引継ぎは年度末の3月か、入学後の4月に行うが、それだけではなく年度内や年度途中にも情報交換が必要だ**と思いました。
- ・幼稚園の子供が「かけ」について興味・関心を示し、自分のかけの形で遊んでいる場面について協議した際、小学校の先生が3年の理科の単元につながるという話をしてくださり、**日々の遊びの中に小学校へつながる「学びの芽」があると感じました。**

第 5 章

保護者に伝える

(2)ドキュメンテーションを活用して子供の育ちや幼児教育の理念を発信

「遊びの可視化」

「遊びを通した学び」は見えにくく、保護者にはその理解が難しい状況です。遊びを通した子供の育ちを観察・記録し、育ちつつある子供の姿を保護者に伝え、幼児教育への理解を深めましょう。

B 幼稚園の事例

積み木の片付け



大型積木は、立方体でいうと縦3個、横6個、高さ2個できちんと収まりますが、立方体、直方体、半円柱、三角柱等、形がばらばらで、みんなが、思い思いに並べるとうまく収まりません。その時が考えるチャンス!!…みんなで協力しながら、図形の特徴を考え、様々な組み合わせを考える中で、「図形」に対する関心・感覚が磨かれていきます。



遊びや生活の中にどのような「**学びの芽**」があるのか、コメントを入れて発信しています

数量や図形、
標識や文字
などへの
関心・感覚

あれ？
どこがおかしいの？
1, 2, 3…

磁石遊び



勝手に
手が回る

ほら、
逃げるん
やで

思考力の
芽生え

ここね、ふんわりした
まあいいボールみたい
なのがあるんよ。持っ
てるから、手で切ってみて

磁石の持ち方によってパツとくっついたり、反発したりするのが不思議でおもしろかったようです。磁石同士が反発する様子に興味をもち、不思議に感じ、何度も試して遊ぶ姿に探究心の育ちが見えます。…身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みを感じ取ったり、気付いたりしています。



園・所での子供の様子を見のがさず、ドキュメンテーション等を活用して伝えていくことも大切ですね
保護者の目に触れやすい玄関を利用する等、掲示の仕方工夫が必要ですね

こども園の事例

泥遊び

それぞれの楽しみ方



バランス、バランス…
こぼさないように…

一つの遊びの中にも、たくさんの
学びや発見、探究心があります



みんなでイメージを出し合って共同作業中

どろだんごつくろ!



パシヤン!パシヤン!音を楽しむ

感触だけではなく、個々の楽しみ方に注目する



どうして
【どろんこ・水あそび】
が多いの?

改訂された幼保連携型認定こども園教育・保育要領で「子ども主体」ということが強調され、「一人一人の子が多様な遊びや活動が選択できるように多様な環境素材を用意しそれぞれが遊べるようにする」などと要請をされています。つまり従来行われていた「みんないっしょに」「指示通り動く」ことに重点をおいた保育



子供たちの何気ない遊びや生活の中には、たくさんの「**学びの芽生え**」があります
具体的な子供の姿を通して、子供の育ちを伝えましょう



深く掘る！

この作業に、一心不乱に取り組む
どんな手の動きがいいのか…



どうやったら、遠くまで飛ぶ？



マイキッチンスタジアム！



しゃもじの中の砂がこぼれださない方法を実験中



この中に水ためてみようか！



カエル、つかまえた～



ではなく、一人一人の興味や関心を引き出し、それらに集中して遊ぶ中で「自分で考え、自分で判断できるような力をつくっていきましょう」ということなのです。そのようなこともあり、本園では、みんなで一緒に行動を要求せざるを得ない「プール活動」の回数を少し減らし、一人一人の楽しみ方を探索したり、広げたりすることのできる(どろんこ・水遊び)の回数を増やすことにしました。(園の保護者向けお便り原文)

2 安心して小学校入学を迎えるために

(1) 保護者に伝えるスタートカリキュラム

D 小学校の事例

入学前 保護者説明会

入学当初 保護者懇談会で

小学校入学に際し、新しい環境に子供たちは期待と同時に不安を抱えています。同じように、保護者も初めて我が子が入学を迎える際には、不安を抱えていると思います。D小学校では、幼児教育と小学校教育の連携・滑らかな接続を考慮し、子供が安心して小学校での生活をスタートできるようにと、入学当初の生活や学習について、保護者説明会や懇談会で話す内容を検討しました。

◆小学校入学前 保護者説明会で…

生活について

幼児期は、遊びの中で学ぶ生活で、納得いくまで遊びに取り組むことができましたが、学校は集団での学習の場で、チャイムの合図で行動します。つまり、限られた時間の中で行動することが多くなります。入学当初の授業では、幼児教育の学びを小学校教育につないでいけるよう、スタートカリキュラムに取り組んでいます。(子供の発達の段階にあわせて)15分から20分程度の単位で時間割を構成することや学習活動の工夫をしていきます。

従来は…

学校は個をみかく集団生活の場ですから、今までとちがって、チャイムの合図で行動、つまり限られた時間の中で行動し、きまりやけじめのある生活をします。家でもきまりのある生活を送るようにさせてください。



安心

「学校は楽しいところ、お友達や親切なお兄さん、お姉さんがいるところ」等、学校に対する期待をもって入学を迎えられるような働きかけをしましょう

文字について

自分の名前の文字や興味のあることの文字が分かるように。(文字に興味があって、書く場合は、鉛筆を正しく持って書けるように留意してください。その際は、「正しい鉛筆の持ち方について」を参照してください)持ち始めのときに正しく持っている習慣になると思います。

従来は…

自分の名前を書くことができるように。できるだけ正しい書き順で書けるよう、また、鉛筆を正しく持って書けるように留意してください。持ち始めのときに正しく持っている習慣になります。(「正しい鉛筆の持ち方について」を参照してください)



数について

数に興味をもち、楽しく数に親しめる機会があればいいですね。例えばお菓子を食えるときに「1つ食べたから3つになったね」「2つ増えたから6つだね」お風呂では「20まで数えてから出ようね」など、**普段の生活の中でも、お子様が数の感覚を養えるような環境づくりを大事にしてください。**



従来は…

1～20まで数えることができるように、楽しく数に親ませてあげてください。例えばお菓子を食えるときに「1つ食べたから3つになったね」「2つ増えたから6つだね」など、普段から数を意識してお子様に声をかけていただけるとありがたいです。

◆入学当初 保護者懇談会で…

「スタートカリキュラム」は、保育所や幼稚園・こども園で、遊びの中から芽生えた学び(興味・関心に基づく学びたい気持ち)を小学校での学びにスムーズにつなげるための取組です。全国的に進められ、本校でも導入しています。

子供の興味・関心を引き出しながら学んでいく合科的な指導を行っていきます。

例えば『どうぞよろしく』では、国語科の名前カードを書く活動と生活科の自己紹介をし合う活動を一体的に学習します。こうした指導を組み入れて授業を進めていきます。

保護者にもいいこと!!

機会をとらえ、
「スタートカリキュラム」の視点を保護者に伝える
ことで、入学する子供の学校生活への不安が解消され、
安心して小学校に送り出すことができます。
また、そのことが**学校への理解と信頼**につながります。



授業の工夫・改善を!!

小学校は、子供が楽しさを感じながら集中して学べるよう、
教え込むのではなく、**幼児期からの学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定**するなど、自分から学んでいけるような、
授業の工夫をしましょう。



せいから
さんすう
こくご

(2)先輩保護者から学ぼう

E 保育所の事例

保護者懇談会(小学校入学に向けて)

子供が小学校に入学するにあたり、保護者の疑問や不安を和らげる観点から、お兄さんやお姉さんのいる先輩保護者から、**小学校の様子について聞く機会**をもっています。

時期 :6月・12月頃

内容 :生活面や就学に向けて 等

目的 :懇談会の中で、保護者同士が悩みや質問を出し、話し合い、先輩保護者から学ぶ機会とする。

工夫 :簡単なゲーム等を通して、和やかな雰囲気をつくり、好きなことやストレス解消法について保護者自身のことを話す時間を設けている。その際には、市で活動する「家庭教育支援チーム」の方の協力を得る場合もある。

懇談会での内容

■「様々な事件が起きているので、小学生になれば登下校が心配、どうすればいいですか？」

- ・心配もしたが、友達もでき、一緒に登下校するから大丈夫だった
- ・小学校では、家から学校まで自分で登下校しなければならないので、入学前に何回か一緒に歩いて練習した
- ・地域の見守り隊の方が、子供たちの登下校を見守ってくれていますよ
- ・登校するときは、皆、小学校に向かっていくけれど、下校時は、学校から遠いと一人になるので、特に帰りの通学路を歩く練習をした方がいいですよ
- ・とにかく、できるだけ一人にならないように言っている



■「小学生になったら、どんな様子ですか？」

- ・その子にもよると思うけど、学校でのことをあまり教えてくれない
- ・毎日“宿題やった？”と聞かないといけない
- ・小学校に入った当初は、不安がっていたが、新しい友達もできて、元気に学校に行っている



保護者が、
小学校の
様子について、
知る機会をもつと
いいですね

■「箸をうまく持てないんだけど、箸を持つ練習をどのようにすればよいでしょうか？」

- ・箸が持てるようになる指導のポイントを資料にそって話す

■「ゲームばかりして困っているんだけど、どのように対応していますか？」

- ・時間を決めて、させている
- ・夕食後、親子で一緒に〇〇をしている
- ・ゲームはバーチャルの世界になり、現実を見られなくなってしまうので、実体験が大切だと思う



■「休みの日は、どのような過ごし方をしていますか？」

- ・近くの公園に行く(〇〇公園・△△公園)
- ・買い物に出掛けることが多い
- ・小学生の兄が野球をしているので一緒に行く

■「よく子供を叱ってしまう。私だけなのかな。どうですか？」

- ・毎日叱ってしまう
- ・口が達者なので、イラッとする時がある
- ・優しく接したい思いはあるが、できない自分がある
- ・叱ってしまった日は、寝る時に“ごめんね”と言っている
- ・なぜ叱ったのか、その理由をきちんと話している

懇談会に参加し、
初めての方とも話が
でき、知り合いになれた
のでよかった

悩みを聞いてもらい、
気持ちがスッキリした

悩みや、
心配事を話すことで、
先輩保護者からの
アドバイスなどがあり、
“自分だけではない”と
安心した

(子育てで小学校のことを)
経験しているお母さんから
話を聞き、安心できた
今後いろいろ
教えてほしい



子供が
小学校に入学すると、
勉強についていけるのか、
友達とうまく関われるのか等、
不安だが、小学校の様子を
教えてもらい安心した

成果

- 保育園は送迎時間が様々で、保護者同士、話をする機会が少ないので、懇談会等を介して知り合いになれる。
- 保護者同士が、知り合いになることで、子供のことについて、何かあった時もお互い話しやすい雰囲気になれる。
- 子育てでの先輩保護者からのアドバイスは、お互い“親”という立場から共感しやすい。

今後に向けて

- 平日は就労のため、参加できない傾向がある。土曜日の懇談や参観は、父親・祖父母の参加も多く見られる。今後、園の状況にあわせて日時の設定を見直す必要がある。

[参考文献]

- 幼稚園教育要領解説(フレーベル館)
- 保育所保育指針解説(フレーベル館)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)
- 小学校学習指導要領(平成29年告示)(文部科学省)



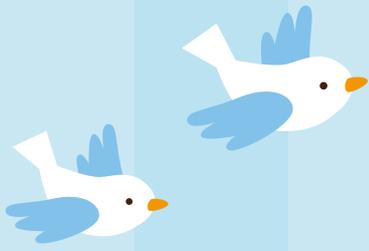
● 編集後記 ●

本冊子の作成にあたっては、幼児教育に係る有識者、県内の公・私立幼稚園、公・私立保育所、私立認定こども園の保育者及び公立小学校の教員の方々を構成員として「幼児教育推進にかかるワーキング会議」を開催し、御助言をいただきました。

事例については、その構成員や市町の行政の方々等に提供していただきました。御協力いただきました皆様方には心から感謝を申し上げます。

*新型コロナウイルス感染症対策のために、各校、各園・所で様々な取組を行っていただいていることと思います。

今後も、適切な感染症対策を講じ、「新しい生活様式」を実践した上で、本冊子を御活用いただき、幼児教育と小学校教育の連携・円滑な接続が図られるようよろしくお願いします。



幼児教育と小学校教育をつなぐ

育ちと学びのかけはしブック

発行：2020(令和2)年4月

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地

和歌山県教育庁学校教育局義務教育課

TEL:073-441-3709

和歌山県教育委員会ホームページ

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500100/index.html>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。